brother

ネットワーク設定ガイド

MFC-9440CN
MFC-9450CDN
DCP-9040CN

本書の使い方･目次

ネットワークで使う前に

ネットワークの設定

セキュリティ機能の設定

Windows® 環境で使う

Macintosh 環境で使う

トラブルシューティング

付　録

困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、故障かな？と思ったときなどは、以下の手順で原因をお調べください。

1 ユーザーズガイド「こんなときは」で調べる　ユーザーズガイド

2 サポート ブラザー　検索　ブラザーのサポートサイトにアクセスして、最新の情報を調べる http://solutions.brother.co.jp/

オンラインユーザー登録 ▶ https://regist.brother.jp/

やりたいことがすぐ探せる! やりたいこと目次 7P

Version B

ユーザーズガイドの構成

本製品には、以下のユーザーズガイドが同梱されています。

冊子

はじめにお読みください

「かんたん設置ガイド」

・設置する
・パソコンへの接続
・ドライバのインストール

ファクス/コピーの基本的な使い方を知りたい

「ユーザーズガイド」

・ファクスを送る
・コピーする
・デジタルカメラからプリント
・日常のお手入れ
・消耗品や部品の交換

使いたい機能をすばやく探せます

HTML（CD-ROM）

「画面で見るマニュアル」（HTML形式）

以下の内容が含まれています

■「ユーザーズガイド」

・ファクス/プリンタ/コピーの使いかた
・トラブルがおきたときの対処方法
・消耗品の注文

■「パソコン活用ガイド」

・プリンタとして使う
・スキャナとして使う
・パソコンからファクスを送受信する
・ Control Centerで便利に使う

■「ネットワーク設定ガイド」

・ LANにつないで使う
・ネットワークスキャナ、ネットワークプリンタとして使うための設定

ブラザーソリューションセンターからダウンロードしてください

PDF

「パソコン活用ガイド」

「かんたん設置ガイド」

「ネットワーク設定ガイド」

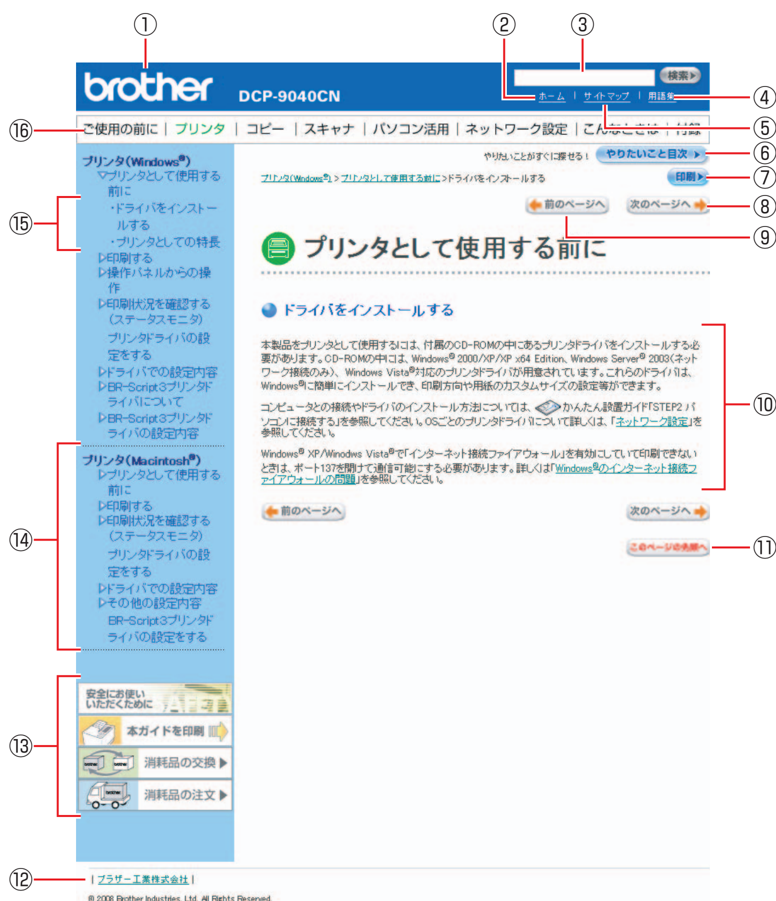
「ユーザーズガイド」

画面で見るマニュアル（HTML形式）の表示画面と操作

画面で見るマニュアル（HTML形式）をお読みになるための表示画面と操作を簡潔に説明します。



①	本ガイドの文書内で単語や単語の一部（文字列）を検索することができます。
②	用語集を表示します。
③	本ガイドの全体構成図を表示します。
④	各機能のページ（章）に移動します。
⑤	やりたいこと目次に移動します。
⑥	「ご使用の前に」：ご使用の前に知っておいていただきたい内容を説明しています。
	「こんなときは」：日常のお手入れや困ったときの解決方法などを説明しています。
	「付録」：文字入力／機能一覧／仕様／索引／ご注文シート／アフターサービスのご案内を説明しています。
	「安全にお使いいただくために」：本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を説明しています。
	「本ガイドを印刷するには」：「画面で見るマニュアル」（HTML形式）を印刷する場合の説明をしています。
	「消耗品の交換」：消耗品の交換方法を説明しています。
	「消耗品の注文」：消耗品の注文方法を説明しています。
⑦	ブラザーソリューションセンターのホームページに移動します。
⑧	ブラザー工業株式会社のホームページに移動します。



①②	トップページに移動します。
③	本ガイドの文書内で単語や単語の一部（文字列）を検索することができます。
④	用語集を表示します。
⑤	本ガイドの全体構成図を表示します。
⑥	やりたいこと目次に移動します。
⑦	現在のページを印刷します。
⑧	次のページに移動します。
⑨	前のページに移動します。
⑩	操作内容を表示します。
⑪	現在のページの最上部に移動します。
⑫	ブラザー工業株式会社のホームページに移動します。
⑬	「安全にお使いいただくために」：本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を説明しています。
	「本ガイドを印刷」：「画面で見るマニュアル」（HTML形式）を印刷するときの説明をしています。
	「消耗品の交換」：消耗品の交換方法を説明しています。
	「消耗品の注文」：消耗品の注文方法を説明しています。
⑭	大見出しです。
⑮	中見出し・小見出しです。
⑯	各機能のページ（章）に移動します。

本書の読みかた

参照ページです。
クリックすると、関連する情報が
記載されているページに移動します。

章を示します。

インデックスです。
現在の章を黒色で示します。

大見出しです。

中見出しです。

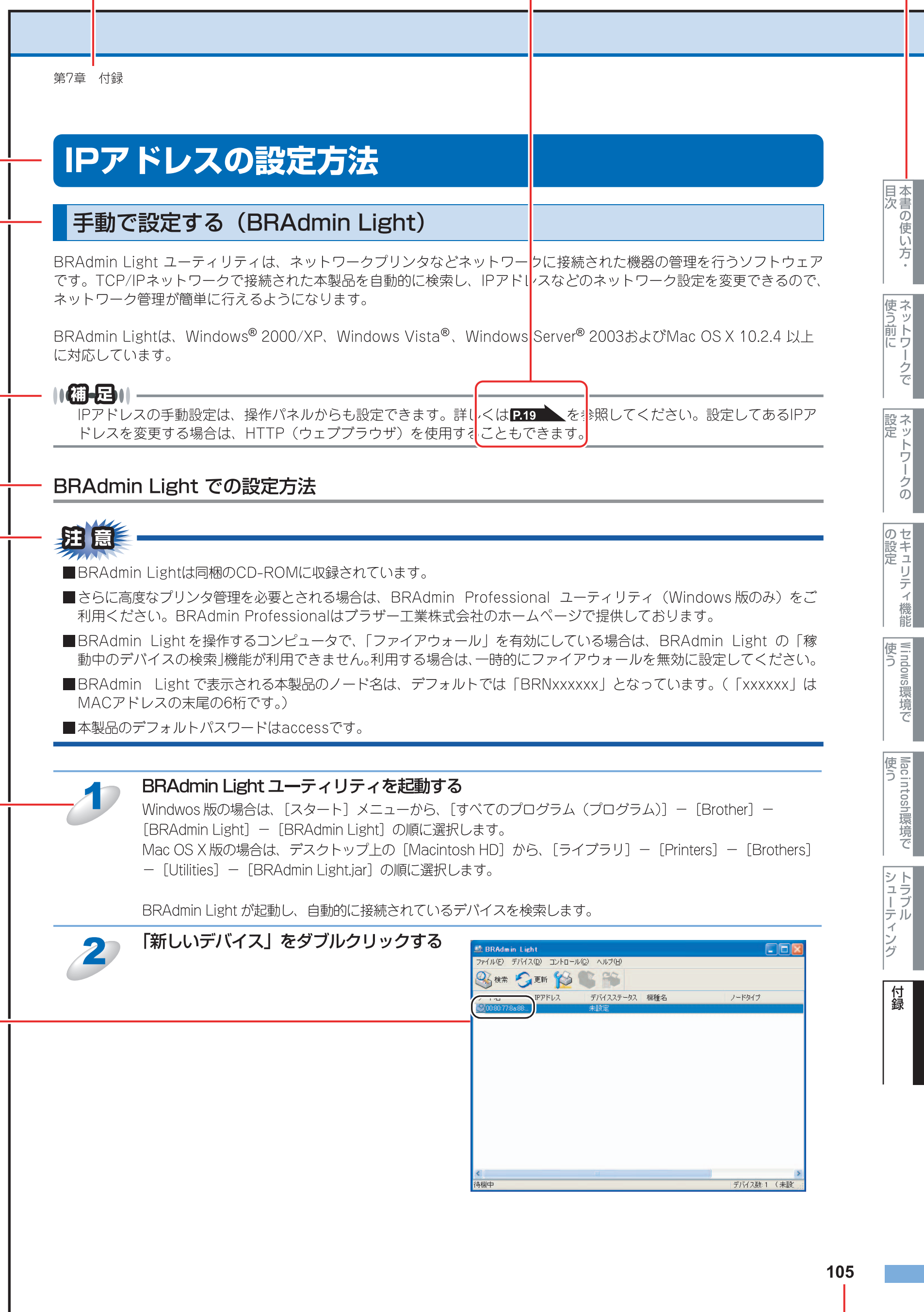
補足項目です。

小見出しです。

注意項目です。

操作手順です。

操作手順を補足する手順画面やイラストです。



第7章　付録

IPアドレスの設定方法

手動で設定する（BRAdmin Light）

BRAdmin Light ユーティリティは、ネットワークプリンタなどネットワークに接続された機器の管理を行うソフトウェアです。TCP/IPネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IPアドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003およびMac OS X 10.2.4 以上に対応しています。

補足

IPアドレスの手動設定は、操作パネルからも設定できます。詳しくは P.19 を参照してください。設定してあるIPアドレスを変更する場合は、HTTP（ウェブブラウザ）を使用することもできます。

BRAdmin Light での設定方法

注意

- ■BRAdmin Lightは同梱のCD-ROMに収録されています。
- ■さらに高度なプリンタ管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional ユーティリティ（Windows 版のみ）をご利用ください。BRAdmin Professionalはブラザー工業株式会社のホームページで提供しております。
- ■BRAdmin Light を操作するコンピュータで、「ファイアウォール」を有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- ■BRAdmin Light で表示される本製品のノード名は、デフォルトでは「BRNxxxxxx」となっています。（「xxxxxx」はMACアドレスの末尾の6桁です。）
- ■本製品のデフォルトパスワードはaccessです。

1 BRAdmin Light ユーティリティを起動する

Windwos 版の場合は、［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順に選択します。
Mac OS X 版の場合は、デスクトップ上の［Macintosh HD］から、［ライブラリ］－［Printers］－［Brothers］－［Utilities］－［BRAdmin Light.jar］の順に選択します。

BRAdmin Light が起動し、自動的に接続されているデバイスを検索します。

2 「新しいデバイス」をダブルクリックする

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

105

ページ番号です。

このページは説明のために作成したもので、実際のページとは異なります。

本書の表記

本文中では、マークおよび商標について、以下のように表記しています。

マークについて

注意	本製品をお使いになるにあたって、注意していただきたいことがらを説明しています。
補足	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。
P.XXX	本書内の参照先を記載しています。（XXXはページ）
「XXX」	冊子のユーザーズガイドの参照先を記載しています。（XXXはタイトル）
「XXX」	画面で見るマニュアル（HTML形式）の参照先を記載しています。（XXXはタイトル）
本製品のボタン	本文中では、MFC-9440CNのボタンイラストを使用しています。

商標について

Windows® 2000 Professionalの正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system です。（本文中ではWindows® 2000と表記しています。）
Windows® XPの正式名称は、Microsoft® Windows® XP operating system です。
Windows Server® 2003の正式名称は、Microsoft® Windows Server® 2003 operating system です。
Windows Vista®の正式名称は、Microsoft® Windows Vista® operating system です。
本文中では、OS名称を略記しています。
Microsoft 、MS-DOS、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverおよび LAN Managerは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Apple、Appleのロゴ、Macintosh、Mac OSは、Apple Inc.の登録商標です。
PostScriptは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標です。
Ethernetは、Xerox Corporationの商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書ならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。

はじめに

概要

本製品のネットワークインターフェースを利用してLANまたはWLANに接続し、ネットワーク上のコンピュータから本製品で原稿のファクスや印刷ができます。
本書は、本製品をネットワーク上で使用するために必要な設定方法について説明しています。

特長と機能

ネットワークプリンタ機能

本製品のネットワークインターフェースはTCP/IPに対応しています。TCP/IPの印刷プロトコルを使用して、ネットワーク上のコンピュータから直接印刷できます。

ネットワークスキャン機能

モノクロまたはカラーでスキャンした画像データを、ネットワーク上のコンピュータへ直接保存できます。

ネットワーク PCファクス送信機能（MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ）

アプリケーションで作成したファイルを、ファクスとして送信できます。あらかじめ PC ファクスアドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクスの送信時に便利です。

ネットワーク PCファクス受信機能（MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ）

（Windows® 専用）
受信したファクスを、本製品とネットワーク接続しているコンピュータに送ります。コンピュータ上で内容を確認してから印刷できます。

管理ユーティリティ

BRAdmin Light
BRAdmin Lightを使用すると、本製品のネットワークインターフェースなどの設定を簡単に行えます。詳しくはP.38を参照してください。

ネットワークリモートセットアップ機能
本製品にネットワーク経由でアクセスして各種設定ができます。詳しくは P.42 を参照してください。

ウェブブラウザ
本製品にウェブブラウザからアクセスして各種設定ができます。詳しくは P.34 を参照してください。

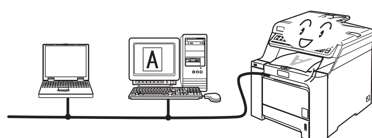
やりたいこと目次

ネットワークプリンタとして使いたい。

本製品をネットワーク環境で使用します。ネットワーク上の複数のコンピュータから印刷できます。

・Windows® の場合 P.70

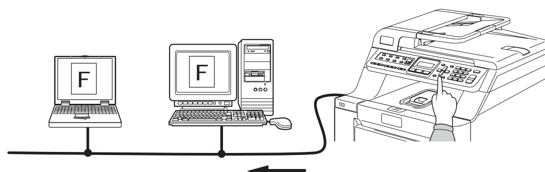
・Macintosh の場合 P.85



ネットワークスキャナとして使いたい。

ネットワーク環境でスキャナとして使用できます。ネットワーク上の複数のコンピュータからスキャナを利用できます。

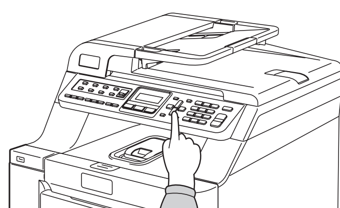
詳しくはP.74 P.90 を参照してください。



操作パネルを使ってネットワークの設定をしたい。

操作パネルのボタンを使用して、ネットワーク上で本製品を使用するための設定ができます。

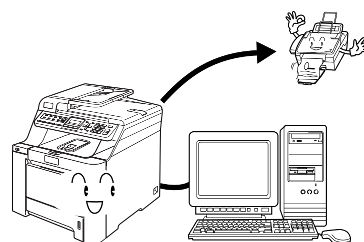
詳しくはP.19 を参照してください。



ネットワーク PC ファクスを使う。（MFC-9440CN/MFC-9450CDN のみ）

プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。

詳しくはP.77 P.92 を参照してください。



ウェブブラウザを使って本製品を管理する。

標準のウェブブラウザから本製品にHTTPを使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。

詳しくはP.34 を参照してください。

BRAdmin Light を使って本製品を管理する。

付属のソフトウェア BRAdmin Light 使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。

詳しくはP.38 を参照してください。

ネットワークリモートセットアップ

本製品にネットワーク経由でアクセスして、各種設定を変更できます。

詳しくはP.42 を参照してください。

目　次

ユーザーズガイドの構成 1
画面で見るマニュアル（HTML 形式）の表示画面と操作 2
本書の読みかた 4
本書の表記 5
マークについて 5
商標について 5
はじめに 6
概要 6
特長と機能 6
やりたいこと目次 7

第 1 章　ネットワークで使う前に 11
ネットワーク導入作業の流れ 12
ネットワークの接続方法を決める 13
ピアツーピア接続 13
ネットワーク接続に必要な環境を整える 15
準備するもの 15
IP アドレスを決める 16

第 2 章　ネットワークの設定 18
操作パネルで設定をする 19
操作パネル 19
TCP/IP の設定 21
IP 取得方法 22
IP アドレス 23
サブネットマスク 24
ゲートウェイ 25
ノード名（NetBIOS 名） 26
WINS 設定 27
WINS サーバ 28
DNS サーバ 29
APIPA 30
IPv6 30
イーサネットの設定 31
LAN 設定の初期化 32
LAN 設定内容リストの出力 33
ウェブブラウザで管理する 34
概要 34
ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法 35
BRAdmin Light で管理する 38
BRAdmin Light のインストール 38
ネットワークインターフェースの設定 39
ネットワークリモートセットアップで管理する 42
ネットワークリモートセットアップ機能とは 42
Windows® で設定する 42
Macintosh で設定する 43

第 3 章　セキュリティ機能の設定 44

概要 45
セキュリティプロトコル 45
セキュリティ方式（エラーメール通知用） 45
プロトコルを設定する 45
ネットワークプリンタを安全に管理する 47
ウェブブラウザを使って安全に管理する 47
BRAdmin Professional を使って安全に管理する（Windows® のみ） 48
IPPS を使って文書を安全に印刷する 49
別の URL を指定する 49
ユーザー認証付 E メール通知を使用する 50
ウェブブラウザを使って POP3/SMTP を設定する 50
証明書を作成してインストールする 52
証明書設定画面を表示する 52
自己署名証明書を作成してインストールする 54
CSR を作成してインストールする 65
証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする 67

第 4 章　Windows® 環境で使う 69

ネットワークプリンタとして使う 70
LPR（Standard TCP/IP）で印刷する 70
プリンタドライバのインストール
（Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003） 71
ネットワークスキャン機能の設定 74
ネットワークスキャン機能とは 74
ネットワークスキャン機能を使用する前に 74
ネットワーク PC ファクス機能を使う（MFC-9440CN/MFC-9450CDN のみ）...77
ネットワーク PC ファクス機能とは 77
ネットワーク PC ファクス機能を使う準備 77
インターネット印刷を使う 78
インターネット印刷とは 78
インターネット印刷を使う準備 78
別の URL を指定する 83

第 5 章　Macintosh 環境で使う 84

ネットワークプリンタとして使う 85
設定の流れ 85
プリントサーバ（本製品）の設定 85
BR-Script3 プリンタドライバのインストール 86
BR-Script3 プリンタドライバの設定 86
ネットワークスキャン機能の設定 90
ネットワークスキャン機能とは 90
ネットワークスキャン機能を使用する前に 90
ネットワーク PC ファクス機能を使う（MFC-9440CN/MFC-9450CDN のみ）...92
ネットワーク PC ファクス機能とは 92

第 6 章　トラブルシューティング 93

概要 94

接続と設定についての問題 95

プロトコル固有の問題 97

TCP/IP のトラブルシューティング 97

Windows® 2000/XP/Winodws Vista® の IPP のトラブルシューティング 98

ウェブブラウザのトラブルシューティング 98

Windows® のインターネット接続ファイアウォールの問題 99

Windows® XP Service Pack2 の場合 100

Winodws Vista® の場合 101

アンチウイルスソフトの問題 102

その他の問題 103

第 7 章　付録 104

文字を入力する 105

操作パネル以外から IP アドレスを設定する 106

IP アドレスの設定方法 107

手動で設定する（BRAdmin Light） 107

DHCP を使用する 108

APIPA を使用する 108

RARP を使用する 109

BOOTP を使用する 109

オートマチックドライバインストーラを使う 111

オープンソフトウェアのライセンス契約文 114

OpenSSL について 114

用語集 116

索　引 119

1章

ネットワークで使う前に

■ ネットワーク導入作業の流れ 12
■ ネットワークの接続方法を決める 13
ピアツーピア接続 13
■ ネットワーク接続に必要な環境を整える 15
準備するもの 15
■ IPアドレスを決める 16

ネットワーク導入作業の流れ

すでに「かんたん設置ガイド」の記載の通り「LAN ケーブルで接続する」を選択してインストールされた場合は「ネットワーク導入作業」は済んでいます。

ネットワーク接続方法を決める

↓

お使いの環境に合わせて本製品をどのように接続するかを決めます。
P.13 を参照してください。

IP アドレスを決める

↓

本製品に割り当てる IP アドレスを決めます。P.16 を参照してください。

本製品とコンピュータを LAN ケーブルで接続する

↓

接続方法については、かんたん設置ガイド「STEP2 パソコンに接続する」を参照してください。

ネットワークの設定を行う

↓

操作パネルを使用して、本製品をネットワーク上で利用できるように IP アドレスなどを設定します。
ウェブブラウザを使用する場合は P.34 を参照してください。
BRAdmin Light を使用する場合は P.38 を参照してください。

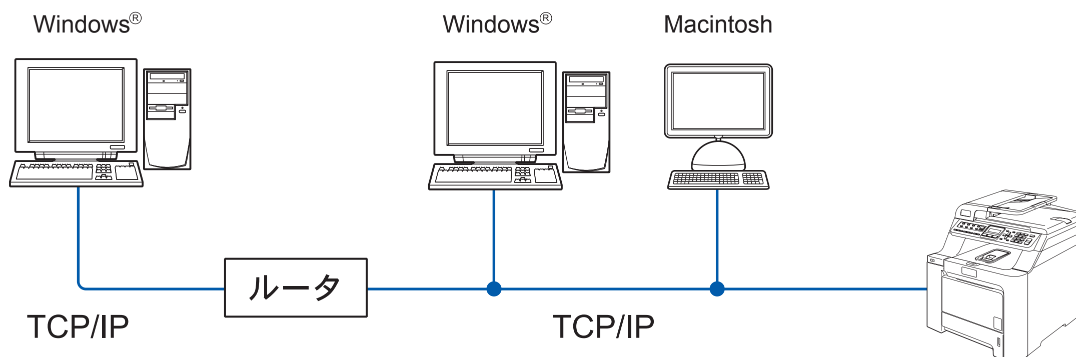
ポートを追加し、プリンタドライバをインストールする

ネットワークの接続方法を決める

接続方法は、各コンピュータから直接本製品と通信して印刷する方法（ピアツーピア）と、本製品に接続されているコンピュータを経由して印刷する方法（ネットワーク共有）があります。

ピアツーピア接続

各コンピュータにプリンタポートの設定をします。



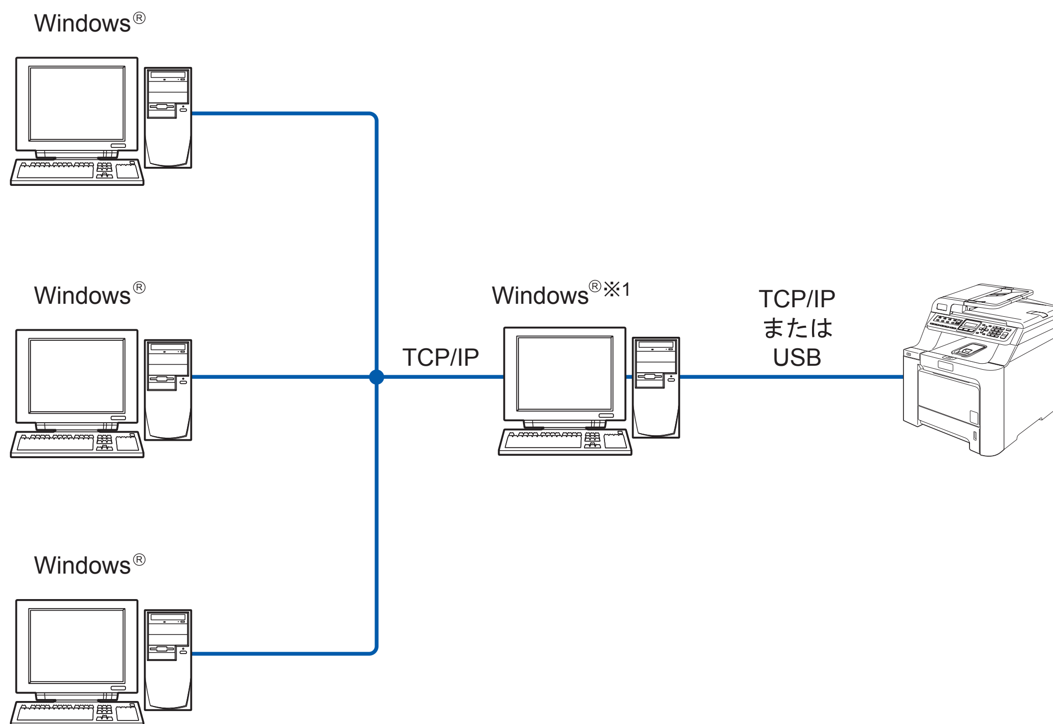
- 各コンピュータにTCP/IPと印刷プロトコルの設定を行います。
- 本製品にもIPアドレスを設定する必要があります。
- すでにTCP/IPでネットワークを構築している場合は、この設定をお勧めします。
- ルータがある場合、ルータの先からも利用可能です。（ゲートウェイの設定が必要）

補足

本書ではピアツーピア接続の設定方法について記載しています。

ネットワーク共有

本製品に直接接続されているコンピュータにのみプリンタポートを設定し、そのコンピュータを経由して他のコンピュータも本製品を共有できます。ただし、本製品に接続されているコンピュータの電源が入っていないと、他のコンピュータは本製品を使用できません。



- 本製品と直接接続するコンピュータ（※1）は、ローカルでプリンタドライバがインストール済みであることが必要です。
- 本製品と直接接続するコンピュータ（※1）の電源が入っていなければ、本製品を使用できません。
- Windows®のみ設定可能です。

補足

ネットワーク共有の設定方法については、Windows® オペレーティングシステムの共有プリンタに関する説明やヘルプを参照してください。

ネットワーク接続に必要な環境を整える

本製品をネットワーク上で使用するために、あらかじめ準備したり調べておくものについて説明します。

準備するもの

● LAN ケーブル

本製品とコンピュータ、またはハブなどの機器同士をつなぐケーブルです。LANケーブルにはいろいろな規格がありますが、現在一般的なのはカテゴリ5E という規格のケーブルです。5E のE は「Enhanced」の略で、「強化された」という意味を持っています。カテゴリ5E のケーブルはカテゴリ5 のケーブルよりもノイズに強い作りになっています。

また、同じカテゴリのケーブルにも「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2 種類があります。ストレートケーブルはADSL モデムとコンピュータの接続、コンピュータとハブの接続に使用されるケーブルで、ほとんどの場合はストレートケーブルで接続が可能です。クロスケーブルは2 台のコンピュータ同士を直接接続するときなどに使用されます。

ケーブルの長さは、機器間の距離に多少の余裕を持って購入してください。ただし、最大ケーブル長は10BASE-T/100BASE-TX とも100m となっているため、それ以下になるようにしてください。

● ハブ

複数台のコンピュータなどをネットワーク接続するときに必要な集線装置です。ハブには、大きく分けて「リピータハブ」と「スイッチングハブ」があります。リピータハブは主に 10BASE-T で使用される集線装置です。スイッチングハブは主に、100BASE-TXや1000BASE-Tに使用される集線装置で、信号の流れを制御してコリジョンという信号の衝突が起きないようにする機能を持っています。

ハブに接続できる機器の数はハブのポート数によって決まります。お使いの環境から、何台の機器を接続するかを検討して購入してください。

● ルータ

ADSL やCATV、光ファイバー（FTTH）などのインターネット網と、家庭・オフィスのLAN（内部ネットワーク）を中継する機器です。複数台のコンピュータから同時にインターネットに接続することができるようになります。ルータを使用すると、接続した各機器に自動でIPアドレスを割り当ててるDHCP機能や、LAN内の独自のIPアドレス（プライベートIPアドレス）を持つ機器に、必要に応じてインターネット用のIPアドレス（グローバルIPアドレス）を割り当てるNAT機能が使えるようになります。

さらにインターネット接続に必要なプロトコルに対応していたり、インターネットからの不正なアクセスを防ぐセキュリティ機能なども持っています。

IPアドレスを決める

● IP アドレスとは

IP アドレスは、接続しているコンピュータの住所にあたるものです。TCP/IP ネットワークに接続するコンピュータなどの機器（ノード）には、必ずIP アドレスを割り当てる必要があります。

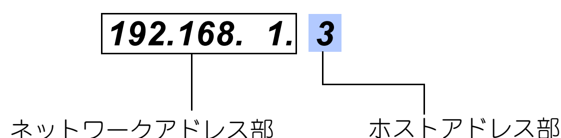
IP アドレスは、0 ～255 までの数字を「.（ピリオド）」で区切って「192.168.1.3」のように表現します。

ローカルネットワークでは、IP アドレスはサブネットマスクによって「ネットワークアドレス部」と「ホストアドレス部」に分割されています。サブネットマスクを設定することにより、ホストアドレス部だけでそのネットワーク全体を管理できます。IP アドレスとサブネットマスクは常にセットで管理してください。

192.168.　1.3 　　**IP アドレス**

255.255.255.0 　　**サブネットマスク**

と設定されている場合、



という意味を持っています。このうち利用可能なホストアドレス部の値は、予約された"0"と"255"を除いた1 ～254 の範囲で、「192.168.1.3」は、

192.168.1.1~254

の中のひとつのアドレスであることがわかります。このネットワークに本製品を追加する場合は、ホストアドレス部が重複しないようにしてください。

補足

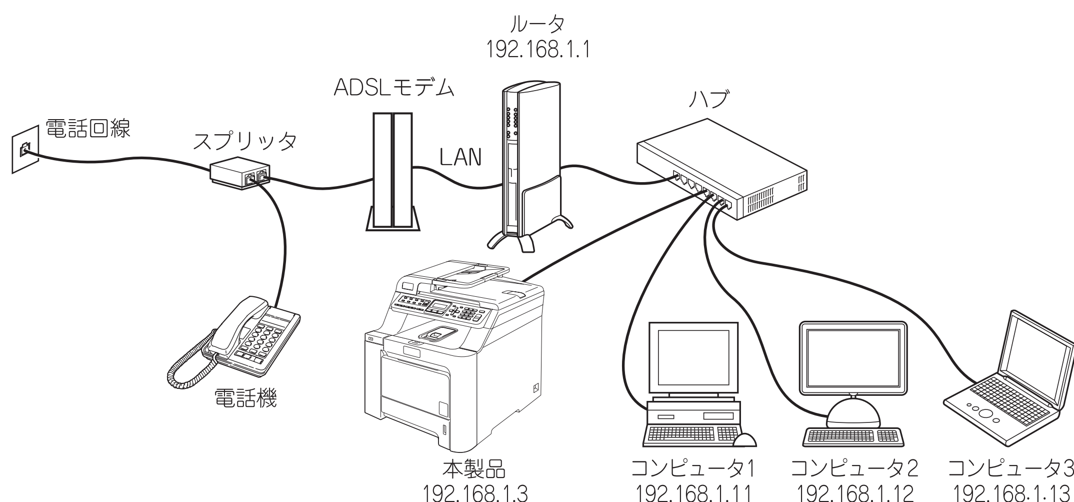
●予約されているアドレス
上記の例では、192.168.1.0 がネットワークアドレス、192.168.1.255 がブロードキャストアドレスとなり、本製品に割り当てることはできません。

● IP アドレスの決め方

本製品を同じネットワーク上に接続するためには、現在使用しているルータなどの初期値に合わせると簡単に設定、管理することができます。IP アドレスを手動で設定する場合は以下のように設定します。
ルータの LAN 側 IP アドレスが「192.168.1.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」である場合、接続する本製品やコンピュータにネットワークアドレス部は同じ値を設定し、ホストアドレス部にはそれぞれ異なる値を割り当てます。ここでは「2～254」の範囲で設定します。以下の例を参考に、接続する機器のIP アドレスを設定してください。

例）

機器名 (ノード)	IP アドレス	サブネットマスク
ルータ	192.168.1.　1	255.255.255.0
本製品	192.168.1.　3	255.255.255.0
コンピュータ 1	192.168.1.11	255.255.255.0
コンピュータ 2	192.168.1.12	255.255.255.0
コンピュータ 3	192.168.1.13	255.255.255.0



補足

● ネットワーク管理者がいるときは
事務所などで多くの機器をネットワーク接続している場合は、ネットワークを管理している担当者に使用できるIP アドレスなどを問い合わせてください。数値を適当に設定すると、ネットワーク接続できないなどトラブルの原因になります。

● ネットワーク内にルータがあるときは
ルータにもIPアドレスが割り当てられています。そのIPアドレスを本製品またはコンピュータに設定しないでください。ルータのIPアドレスはルータの取扱説明書を確認するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

● DHCP環境でお使いの場合
ルータ以外にDHCPサーバが設置されているときは、ルータのDHCPサーバ機能を無効にするか、本製品のIPアドレス取得方法を「Static」にしてください。P.22 を参照してください。
ルータについては、かんたん設置ガイド「STEP2 パソコンに接続する」を参照してください。

2章

ネットワークの設定

■ 操作パネルで設定をする 19
操作パネル 19
■ TCP/IPの設定 21
IP取得方法 22
IPアドレス 23
サブネットマスク 24
ゲートウェイ 25
ノード名（NetBIOS名） 26
WINS設定 27
WINSサーバ 28
DNSサーバ 29
APIPA 30
IPv6 30
■ イーサネットの設定 31
■ LAN設定の初期化 32
■ LAN設定内容リストの出力 33
■ ウェブブラウザで管理する 34
概要 34
ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法 35
■ BRAdmin Lightで管理する 38
BRAdmin Lightのインストール 38
ネットワークインターフェースの設定 39
■ ネットワークリモートセットアップで管理する 42
ネットワークリモートセットアップ機能とは 42
Windows®で設定する 42
Macintoshで設定する 43

操作パネルで設定をする

この章では、操作パネルにある各種ボタンと液晶ディスプレイ（LCD）を使用して、ネットワークを設定する方法について説明します。
本製品の操作パネルのボタンを利用することで、コンピュータから操作しなくてもネットワークの各設定項目を修正できます。

操作パネル

操作パネルは、各設定項目を表示したり、ダイヤルボタンやワンタッチダイヤルなどで入力した文字を表示します。

操作パネルを使用すれば、「LAN」設定メニューを通じてネットワーク設定をすることができます。

MFC-9440CN/MFC-9450CDNは、メニュー、7 PQRS の順に押す。

DCP-9040CNは、メニュー、4 GHI の順に押す。

```
LAN
1.TCP/IP ｾｯﾃｲ
```

このようにLANのメインメニューへ入ることができます。下記の4つの項目からそれぞれの設定画面に移ることができます。

- TCP/IP設定.. P.21 を参照してください。
- イーサネットの設定............................. P.31 を参照してください。
- LAN設定の初期化................................ P.32 を参照してください。
- LAN設定内容リストの出力................. P.33 を参照してください。

補足

一度ネットワーク上で有効な IP アドレスを本製品に割り当てた後は、お使いのウェブブラウザからネットワークを通じてすべての設定項目を変更可能です。また、本製品に同梱のCD-ROMに収録されているBRAdmin Lightを、ご使用いただくことで同様に設定が可能です。

操作パネルから文字を入力する

ネットワーク設定で必要なIPアドレスやノード名などは、ダイヤルボタンを使用して入力できます。
ネットワーク設定の関連機能で入力できる文字の一覧は下表にまとめています。
ダイヤルボタンを表にある回数押すことで、そのボタンに割り当てられた文字を入力することができます。［⁎］と［#］には記号が割り当てられています。

補足
入力できる文字の種類は、設定項目によって異なります。

ダイヤルボタン文字対応表

ボタン ＼ 回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	@	.	/	1													
2	a	b	c	A	B	C	2										
3	d	e	f	D	E	F	3										
4	g	h	i	G	H	I	4										
5	j	k	l	J	K	L	5										
6	m	n	o	M	N	O	6										
7	p	q	r	s	P	Q	R	S	7								
8	t	u	v	T	U	V	8										
9	w	x	y	z	W	X	Y	Z	9								
0	0																
⁎	スペース	!	”	#	$	%	&	’	(	)	⁎	+	,	-	.	/	€
#	:	;	<	=	>	?	@	[	]	^	_	¥	～	‘	|	{	}

入力時の画面には、一覧の文字のうち設定する機能で利用できる文字のみ表示され、例えばIPアドレスの設定画面では数字のみが表示されます。
MFC-9440CN/MFC-9450CDNではカナ文字も入力できます。

- カーソルを移動する
  ◀または▶をお使いください。

- 入力した文字を修正する
  入力を間違えたときは、◀または▶を使って修正する文字にカーソルを移動し、クリア/バックを押して削除後、正しい文字を入力し直します。途中の文字を入力し忘れたときは、間違えた箇所までカーソルを移動して入力し直してください。

TCP/IPの設定

TCP/IPを使用して印刷するには、本製品にIPアドレスとサブネットマスクを設定します。ルータの先に本製品が接続されている場合は、ルータのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

補足

本製品のお買い上げ時のデフォルトは、次の通りです。
- IPアドレス：169.254.x.x（APIPA機能による自動割当）

注意

■DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用していない場合は、デフォルトのIPアドレスは192.0.0.192になります。

■DHCP、BOOTP、RARP または APIPA 機能を使用しない場合は、自動的に IP アドレスを取得しないように、IP の設定方法を手動（static（固定））に設定します。P.22 を参照してください。

このメニューは10の項目で構成されています。

- IP取得方法
- IPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ
- ノード名
- WINS設定
- WINSサーバ
- DNSサーバ
- APIPA
- IPv6

補足

TCP/IPを設定する他の方法
- ウェブブラウザを使用する場合はP.34 を参照してください。
- その他TCP/IPを設定する方法はP.38 P.106 を参照してください。

IP取得方法

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、1 の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、1 の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「IP シュトク ホウホウ」と選択します。

2 **▲または▼を押して「Auto」、「Static」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」のいずれかを選択する**

お買い上げ時は「Auto」になっています。

3 **OK を押す**

IP アドレス取得方法が確定されます。

- 「Auto」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」を選択した場合は、次の手順4を実行します。
- 「Static」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 **IP アドレスの取得を試みる回数を設定して、[OK] を押す**

初期設定は「00003」です。IP アドレスの取得に失敗する場合は、数値を大きくします。

5 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

補足

IP取得方法を「Auto」に設定すると、「DHCP」、「BOOTP」、「RARP」の順にネットワーク内のIPアドレス配布サーバを探して、IPアドレスを取得します。これらのサーバが見つからなかった場合は、「APIPA」機能により、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

IPアドレス

本製品の現在のIPアドレスが表示されます。お買い上げ時はAPIPAにより自動的に割り当てられています。IPアドレスを変更する場合は、IP取得方法をStatic（手動）に指定してください。
Static以外のIP取得方法が選ばれている場合は、DHCP、RARPまたはBOOTPのプロトコルを使用してIPアドレスを自動的に取得します。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、2 ABC の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、2 ABC の順に押す。

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「IP アドレス」と選択します。

2 **「IP アドレス」を入力する**

設定済みの場合は、「ヘンコウ 1. スル 2. シナイ」と表示されます。そのときは1を押します。2 ABCを押すと、設定画面へ戻ります。

3 **OKを押す**

IP アドレスが登録されます。

4 **停止/終了を押す**

設定メニューを終了します。

サブネットマスク

本製品の現在のサブネットマスクが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、3 DEF の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、3 DEF の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「サブネット マスク」と選択します。

2 **サブネットマスクを入力する**

設定済みの場合は、「ヘンコウ 1. スル 2. シナイ」と表示されます。そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

3 **OK を押す**

サブネットマスクが登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイアドレスが表示されます。DHCP、RARPやBOOTPを使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイやルータを使用しない場合は初期値(000.000.000.000)にしておいてください。アドレスが不明な場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、4 GHI の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、4 GHI の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「ゲートウェイ」と選択します。

2 **ゲートウェイアドレスを入力する**

設定済みの場合は、「ヘンコウ 1.スル 2.シナイ」と表示されます。そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

3 **OK を押す**

ゲートウェイアドレスが登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

ノード名（NetBIOS名）

ノード名をネットワークに登録するために使用します（WINSサーバに登録されているNetBIOS名になります）。
Brother の推奨はBRNxxxxxx（xxxxxxはMACアドレスの末尾6 桁）です。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、5 JKL の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、5 JKL の順に押す。

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。
「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「ノード メイ」と選択します。

2 **ノード名を入力する**

設定済みの場合は、「ヘンコウ　1. スル　2. シナイ」と表示されます。そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、P.20 を参照してください。
ノード名は、最大15文字まで入力できます。

3 **OK を押す**

ノード名が登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

WINS設定

この項目で本製品がWINSをどのように解決するかを設定します。

Auto

DHCPサーバから自動的にプライマリー、セカンダリーのWINSサーバアドレスを取得します。「IP　ｼｭﾄｸ　ﾎｳﾎｳ」がAutoに設定されている必要があります。

Static

手動でWINSサーバアドレスを設定します。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、6 MNO の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、6 MNO の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP　ｾｯﾃｲ」－「WINS　ｾｯﾃｲ」と選択します。

2 **▼を押して「Auto」、「Static」のどちらかを選択する**

お買い上げ時は「Auto」になっています。

3 **OK を押す**

WINS 設定が登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

WINSサーバ

WINSサーバの設定をします。

● プライマリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリWINS（Windows® Internet Naming Service）サーバのIPアドレスを登録します。

● セカンダリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリWINS（Windows® Internet Naming Service）サーバのIPアドレスを登録します。セカンダリWINSサーバはプライマリWINSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからないときに機能します。
ネットワーク内にセカンダリのWINSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7、1、7 の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4、1、7 の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。
「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「WINS　サーバ」と選択します。

2 **▲または▼で「プライマリ」または「セカンダリ」の WINS サーバを選択する**

3 **OK を押す**

設定済みの場合は、「ヘンコウ　1. スル　2. シナイ」と表示されます。そのときは 1 を押します。2 を押すと、設定画面へ戻ります。

4 **WINS サーバのアドレスを入力する**

5 **OK を押す**

WINS サーバのアドレスが登録されます。

6 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

DNSサーバ

DNS（ドメインネームシステム)サーバの設定をします。

● プライマリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリDNS（Domain Name System）サーバのアドレスを指定します。

● セカンダリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリDNSサーバのアドレスを指定します。セカンダリDNSサーバはプライマリDNSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからない場合に機能します。
ネットワークのトラフィックが大きい環境で使用する場合に設定してください。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、8 TUV の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、8 TUV の順に押す。

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。
「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「DNS　サーバ」と選択します。

2 **▲または▼で「プライマリ」または「セカンダリ」の DNS サーバを選択する**

3 **OKを押す**

設定済みの場合は、「ヘンコウ　1.スル　2.シナイ」と表示されます。そのときは1を押します。2 ABCを押すと、設定画面へ戻ります。

4 **DNS サーバのアドレスを入力する**

5 **OKを押す**

DNS サーバのアドレスが登録されます。

6 **停止/終了を押す**

設定メニューを終了します。

APIPA

接続したネットワークの環境に合わせたTCP/IP設定を自動的に行います。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、9 WXYZ の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、9 WXYZ の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「APIPA」と選択します。

2 **▲または▼で「On」、「Off」のどちらかを選択する**

お買い上げ時は On に設定されています。

3 **OK を押す**

APIPA の設定が登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

IPv6

本製品は次世代インターネットプロトコルIPv6に対応しています。IPv6プロトコルを使用する場合は、「On」に設定してください。お買い上げ時は、「Off」に設定されています。IPv6プロトコルでの設定方法については、ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/）をご覧ください。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、1、0 の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、1、0 の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「TCP/IP セッテイ」－「IPv6」と選択します。

2 **▲または▼で「On」、「Off」のどちらかを選択する**

3 **OK を押す**

IPv6 の設定が登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

補足

設定を変更した場合は、本製品の電源を入れ直した後に設定が有効になります。

イーサネットの設定

この設定の変更を有効にするためには、本製品を再起動する必要があります。

注意

誤った設定をした場合、本製品にアクセスできなくなることがあります。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、2 ABC の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、2 ABC の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

「LAN」－「イーサネット」と選択します。

2 **▲または▼でリンクモードを選択する**

選べるモードは以下のとおりです。
（お買い上げ時は Auto に設定されています）

- Auto
- 100B-FD
- 100B-HD
- 10B-FD
- 10B-HD

3 **OK を押す**

イーサネットの設定が登録されます。

4 **停止/終了 を押す**

設定メニューを終了します。

● Ethernet リンクモードについて

Auto：

100BASE-TX（全二重/半二重）、10BASE-T（全二重/半二重）モードを自動的に選びます。

100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD：

それぞれのリンクモードに固定されます。

- 100B-FD　：100BASE-TX Full Duplex
- 100B-HD　：100BASE-TX Half Duplex
- 10B-FD　：10BASE-T Full Duplex
- 10B-HD　：10BASE-T Half Duplex

LAN設定の初期化

現在のLAN設定を全て初期化できます。初期化すると本製品は自動的に再起動します。

1 **MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、7 PQRS、0 の順に押す。**

DCP-9040CN の場合：メニュー、4 GHI、0 の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。
「LAN」－「LAN セッテイ　リセット」と選択します。

2 **1 を押す**

2 ABC を押すと、設定メニューに戻ります。

3 **1 を押す**

- 2 ABC を押すと、設定メニューに戻ります。
- 1 を押すと、数秒後に本製品が再起動します。

LAN設定内容リストの出力

現在のネットワークに関する設定内容を印刷できます。



MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：メニュー、6 MNO、7 PQRS の順に押す。

DCP-9040CN の場合：メニュー、5 JKL、3 DEF の順に押す。

▲または▼で選択して OK で決定することも可能です。

MFC-9440CN/MFC-9450CDN の場合：「レポート　インサツ」－「LAN セッテイナイヨウリスト」と選択します。

DCP-9040CN の場合：「セイヒン ジョウホウ」－「セッテイナイヨウリスト」と選択します。



スタート を押す

LAN 設定内容リストが印刷されます。

ウェブブラウザで管理する

概要

標準のウェブブラウザで、HTTP（Hyper Text Transfer Protocol）を使用して、本製品を管理することができます。Windows®の場合はMicrosoft Internet Explorer 6.0以降またはFirefox 1.0以降、Macintoshの場合はSafari 1.0以降を推奨いたします。

補足

•どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびクッキーを有効にして使用してください。

•Safariの場合は、JavaScriptを有効にするには、1.2以降にアップグレードすることを推奨いたします。

•他のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP 1.0およびHTTP 2.0と互換性があることを確認してください。

IPアドレスの自動設定機能（APIPA）が、IPアドレスを169.254.1.0から169.254.254.255の範囲で自動的に割り当てます。お買い上げ時にAPIPAは有効になっていますが、無効にするときはP.30を参照してください。
APIPAが無効になっているときは、本製品のデフォルトIPアドレスは192.0.0.192です。変更するときには操作パネル、ウェブブラウザまたはBRAdmin LightやBRAdmin Professional（ブラザーソリューションセンターからダウンロード）を使用してください。

ウェブブラウザを使用して、次の情報を本製品から取得することができます。
1. 本製品のステータス情報
2. 本製品のセットアップ情報の設定と変更
3. 電話帳登録と変更
4. ネットワーク設定情報と変更
5. 本製品とネットワークボード（NIC）のバージョン情報

● 条件

• 本製品とコンピュータのTCP/IP設定が完了していること。

● 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを起動し、本製品のIPアドレスまたはノード名（NetBIOS名）を入力します。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法

ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法



ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://*ip_address*（[*ip_address*] はご使用になる本製品の IP アドレス）を入力する



例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
　ウェブブラウザに http://192.168.1.3 と入力します。

- 本製品のIPアドレスの確認は、P.23 を参照してください。
- Windows®のドメイン/ワークグループ環境の場合は、ノード名（NetBIOS名）を使用することもできます。
- DNSを使用している場合は、DNS名を入力します。



本製品にアクセスすると、ネットワークの設定画面が表示されます。

目的の管理機能へのリンクをクリックする

- 本製品のIPアドレスを変更する場合は、［ネットワーク設定］をクリックします。
- ネットワークの設定を表示する場合は、［ネットワーク設定］をクリックします。



補足

Mac OS X ユーザーの方は、ステータスモニタの本製品アイコンをクリックしてウェブブラウザを起動することで、本製品にアクセスすることができます。
詳しくは、「画面で見るマニュアル」（HTML形式）を参照してください。

パスワードについて

ウェブブラウザでは、2段階のパスワードによる管理が可能です。一般ユーザーで管理できるのは「基本設定」「ファクス設定」「コピー設定」です。

一般ユーザー

ユーザー名：user
パスワード：access
また、ネットワーク管理者用のパスワード管理では、全ての機能を管理できます。

管理者

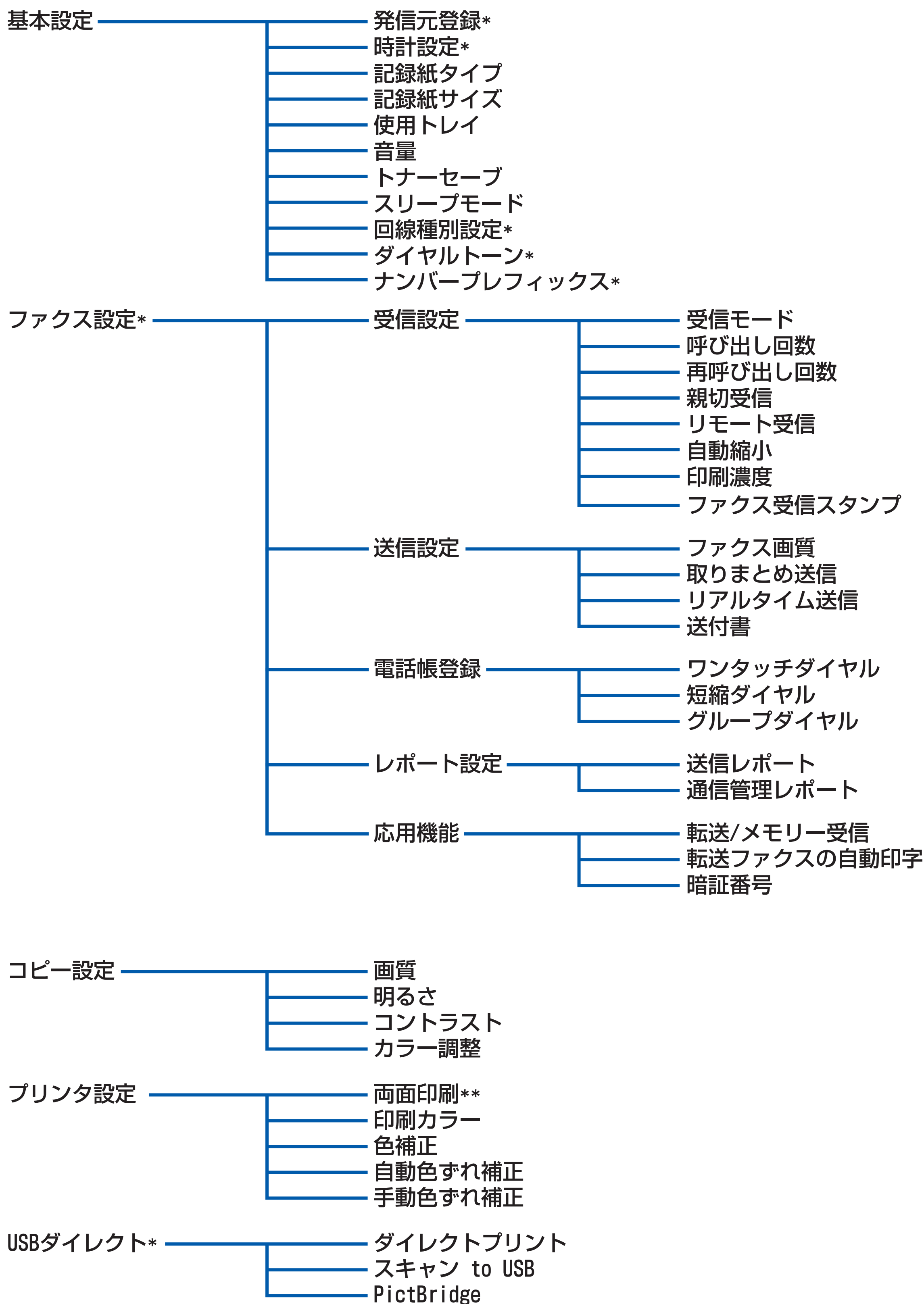
ユーザー名：admin
パスワード：access

ウェブブラウザを使用して本製品を設定する

一般ユーザーパスワードで管理できる項目は、以下の項目です。
なお、管理者用のパスワードではすべての項目を管理できます。

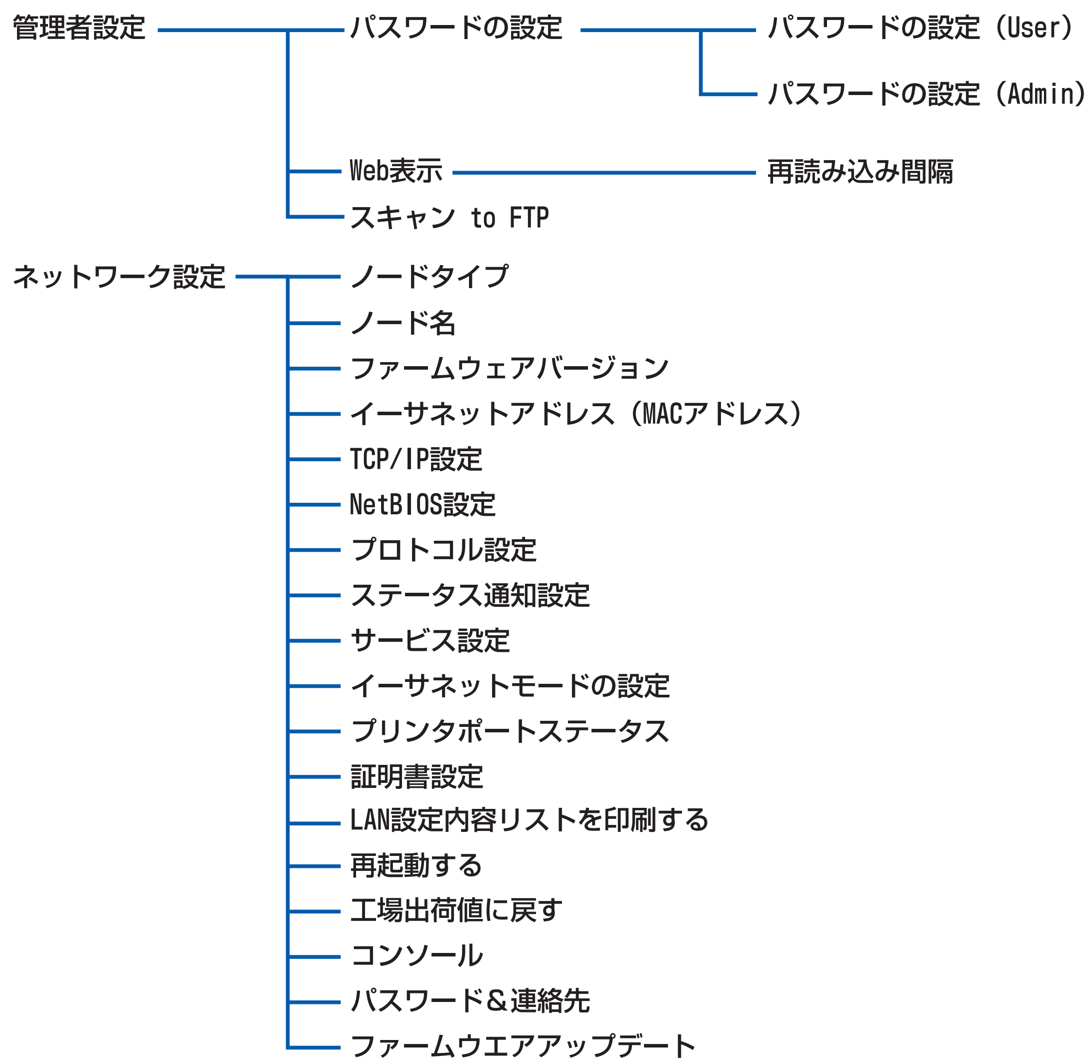
補足

「*」の付いている項目は、MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ表示される機能です。
「**」の付いている項目は、MFC-9450CDNのみ表示される機能です。



本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

次の項目は、管理者用のパスワードでなければ管理できません。



BRAdmin Lightで管理する

BRAdmin Lightのインストール

BRAdmin Lightは、ネットワークプリンタなどネットワークに接続された機器の管理を行うソフトウェアです。
Mac OS Xを使用している場合は、ドライバをインストールするとBRAdmin Lightも同時にインストールされます。

補足

- ●TCP/IPネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IPアドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。
- ●BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP/Windows Vista®、Windows Server® 2003およびMac OS X 10.2.4以上に対応しています。
- ●さらに高度なプリンタ管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional ユーティリティ（Windows® 版のみ）をご利用ください。BRAdmin Professional は、ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/）よりダウンロードしてご使用ください。

BRAdmin Light（Windows®版）をインストールする

1 付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

2 ［その他ソフトウェアとユーティリティ］をクリックする



3 ［BRAdmin Light］をクリックし、画面の指示にしたがってインストールする



補足

Windows® XP/Winodws Vista® で、「インターネット接続ファイアウォール」（Windowsファイアウォール）を有効にしている場合は、BRAdmin Lightの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的に無効に設定してください。詳しい説明は、P.99 を参照してください。

ネットワークインターフェースの設定

TCP/IPを利用して印刷するには、本製品にIPアドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定します。

補足

ゲートウェイの設定

ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つIPアドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータのIPアドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

IPアドレスは以下の方法で割り当てます。

- IPアドレス配布サーバを利用している場合
  本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。

- IPアドレス配布サーバを利用していない場合
  DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境のIP アドレスの設定規則に適さない場合は、BRAdmin Light やBRAdminProfessional を使用して本製品の IP アドレスを設定してください。

補足

お買い上げ時のIPアドレス

●IPアドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

- IPアドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA機能による自動割当）
- パスワード：access

現在の設定値を調べるときは、「LAN設定内容リスト」を印刷します。詳しくは、P.33を参照してください。

● BRAdmin Professional は、ブラザーソリューションセンターよりダウンロードしてご使用ください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

Windows®版で設定する

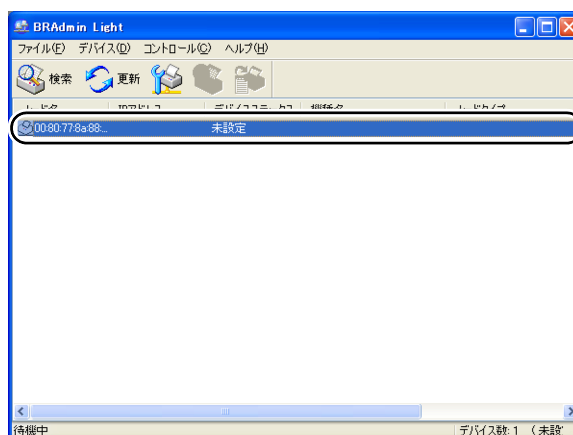
1 本製品とコンピュータをネットワークに接続した状態で、BRAdmin Light を起動する

新しいデバイスを自動的に検索します。

注意

ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合やIPアドレスの自動設定機能によりIPアドレスが割り当て済みの場合には、ウィンドウの右側に本製品のネットワークインターフェースが表示されます。

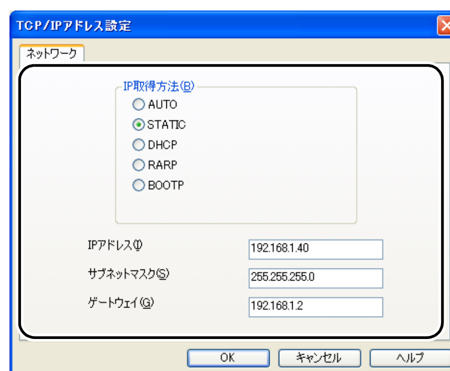
2 ［デバイスステータス］が［未設定］となっている本製品をダブルクリックする



補足

現在設定されているノード名やMACアドレスを調べるときは、「LAN設定内容リスト」を印刷します。
詳しくは、P.33 を参照してください。

3 本製品のネットワークの設定をする



4 ［OK］をクリックする

本製品に IP アドレスが正しく設定されると、ウィンドウにノード名およびプリンタ名が表示されます。

補足

BRAdmin Lightを使用せずにIPアドレスを設定するときは以下の方法でもIPアドレスの設定ができます。

- 操作パネルで設定する場合はP.23 を参照してください。
- DHCP、RARP、BOOTPを使用する場合はP.108 P.109 を参照してください。

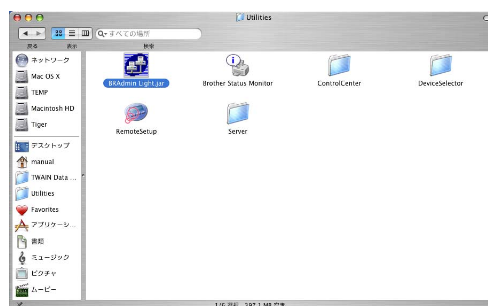
本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

Mac OS X（10.2.4以降）版で設定する

BRAdmin Lightは、ドライバをインストールすると自動的にインストールされます。

1 デスクトップ上の［Macintosh HD］から、［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］－［BRAdmin Light.jar］の順に選択する

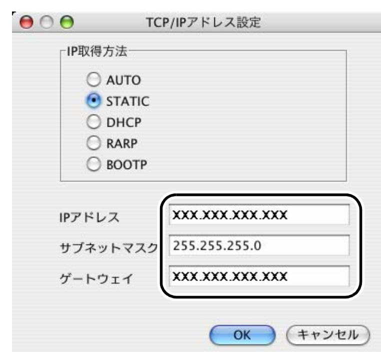
BRAdmin Light が起動し、新しいデバイスを自動的に検索します。



2 新しいデバイスをダブルクリックする



3 ［［IP アドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力する



4 ［OK］をクリックする

アドレス情報が本製品に保存されます。

ネットワークリモートセットアップで管理する

ネットワークリモートセットアップ機能とは

本製品の設定をネットワークに接続しているパソコンから変更したり、本製品の電話帳を編集したりできます。

Windows®で設定する

リモートセットアップを起動する



［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［xxx-xxxxxx（モデル名）］－［リモートセットアップ］の順に選ぶ

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップのダイアログボックスが表示されます。
リモートセットアップの使い方、変更できる設定については、「画面で見るマニュアル」（HTML 形式）の「リモートセットアップ」をご覧ください。

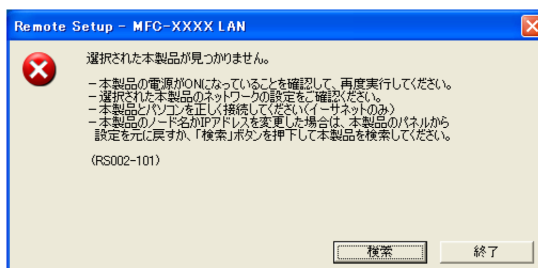
補足

BRAdmin Lightでパスワードを設定している場合は、ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。（初期設定は「access」です。）

本製品との接続に失敗した場合



エラーメッセージの［検索］をクリックする





表示される機器の一覧から、設定を変更する機器を選び、［OK］をクリックする

選択した機器への接続を開始します。
再度機器を検索する場合は、［検索］をクリックしてください。



補足

表示される一覧に、接続先の機器が表示されない場合

［手動設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで、接続先のIPアドレスまたはノード名を入力して設定してください。

Macintoshで設定する

リモートセットアップを起動する

1 **[Macintosh HD] － [ライブラリ] － [Printers] － [Brother] － [Utilities] から [Remote Setup] アイコンをダブルクリックする**

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップの画面が表示されます。

詳細な説明については「画面で見るマニュアル」（HTML 形式）の「リモートセットアップ」をご覧ください。

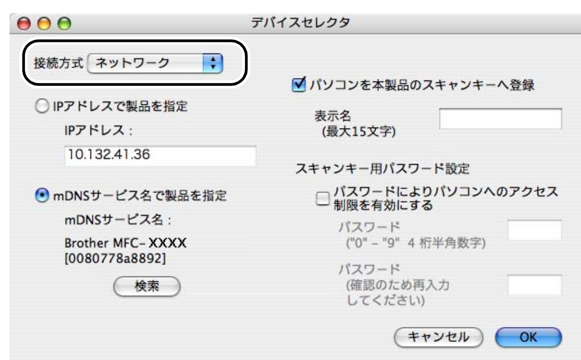


ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。
（初期設定は「access」です。）

本製品との接続に失敗した場合

1 **[Macintosh HD] － [ライブラリ] － [Printers] － [Brother] － [Utilities] － [DeviceSelector] の [デバイスセレクタ] をダブルクリックする**

2 **[ネットワーク] を選ぶ**



3 **[検索] をクリックする**

4 **表示される機器の一覧から、接続する機器を選び、[OK] をクリックする**

選択した機器への接続を開始します。
再度機器を検索する場合は、[検索] をクリックしてください。

3章

セキュリティ機能の設定

■ 概要 45
セキュリティプロトコル 45
セキュリティ方式（エラーメール通知用） 45
プロトコルを設定する 45
■ ネットワークプリンタを安全に管理する 47
ウェブブラウザを使って安全に管理する 47
BRAdmin Professionalを使って安全に管理する（Windows®のみ） 48
■ IPPSを使って文書を安全に印刷する 49
別のURLを指定する 49
■ ユーザー認証付Eメール通知を使用する 50
ウェブブラウザを使ってPOP3/SMTPを設定する 50
■ 証明書を作成してインストールする 52
証明書設定画面を表示する 52
自己署名証明書を作成してインストールする 54
CSRを作成してインストールする 65
証明書と秘密鍵をインポート/エクスポートする 67

概要

パソコンをネットワークに接続していると、外部から不正にネットワークからアクセスされてパソコンやネットワーク上のデータが読み取られてしまうなどの危険性があります。
本製品は、最新のネットワークセキュリティおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。
この章では、本製品が対応しているセキュリティプロトコルや設定方法について説明しています。

セキュリティプロトコル

本製品は、以下のセキュリティプロトコルに対応しています。

● SSL（Secure Socket Layer）/TLS（Transport Layer Security）

これらのセキュリティ通信プロトコルは、データを暗号化して、セキュリティを強化します。

● ウェブサーバ（HTTPS）

ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）でSSLを用いるインターネットプロトコルです。

● IPPS

インターネット印刷プロトコル（IPPバージョン1.0）でSSLを用いる印刷プロトコルです。

セキュリティ方式（エラーメール通知用）

本製品は、以下のエラーメール通知のセキュリティに対応しています。

● POP before SMTP（PbS）

クライアントからEメールを送信する際のユーザー認証方法です。クライアントは、Eメールを送信する前にPOP3サーバにアクセスすることによって、SMTPサーバを使用する許可を得ます。

● SMTP-AUTH（SMTP 認証）

クライアントからEメールを送信する際のユーザ認証方法です。
SMTP-AUTHは、SMTP（インターネットEメール送信プロトコル）を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

● APOP

APOPは、POP3（インターネット受信プロトコル）を拡張し、クライアントがEメールを受信するときに用いるパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

プロトコルを設定する

ウェブブラウザを使って、各プロトコルおよびセキュリティ方法を有効または無効にできます。

補足

- Windows®の場合はMicrosoft Internet Explorer 6.0以降またはFirefox 1.0以降、Macintoshの場合はSafari 1.0以降を推奨いたします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびクッキーを有効にして使用してください。
- Safariの場合は、JavaScriptを有効にするには、1.2以降にアップグレードすることを推奨いたします。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品のIPアドレスが必要です。
- 本製品のお買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

1 **ウェブブラウザを起動します。**

2 **ウェブブラウザの入力欄に http://ip_address を入力します。**

（[ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ブラウザに http://192.168.1.3 を入力します。

補足

hosts ファイルを編集した場合や、またはドメインネームシステムを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。お買い上げ時のNetBIOS名は、「BRNxxxxxx」です。「xxxxxx」はMACアドレスの末尾6桁です。

3 **[ネットワーク設定] をクリックします。**

4 **[ユーザ名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックします。**

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

5 **[プロトコル設定] をクリックします。**

6 **必要に応じてプロトコルの設定を変更します。**

7 **設定を変更した場合は、[OK] をクリックします。**

プリンタの電源を入れ直した後に、設定が変更されます。

ネットワークプリンタを安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するには、セキュリティプロトコルとあせわて、以下の管理ソフトウェアを使用する必要があります。

- ウェブブラウザP.47
- BRAdmin ProfessionalP.48

補足

BRAdmin Lightでは設定できません。BRAdmin Professionalを使用してください。BRAdmin Professionalは、「ブラザーソリューションセンター」（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。

ウェブブラウザを使って安全に管理する

HTTPSプロトコルを使用するには、以下のプリンタ設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をプリンタにインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.52を参照してください。
- HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。HTTPS プロトコルを有効にするには、「プロトコルを設定する」P.45を参照してください。

補足

- Windows®の場合はMicrosoft Internet Explorer 6.0以降またはFirefox 1.0以降、Macintoshの場合はSafari 1.0以降を推奨いたします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびクッキーを有効にして使用してください。
- Safariの場合は、JavaScriptを有効にするには、1.2以降にアップグレードすることを推奨いたします。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品のIPアドレスが必要です。
- 本製品のお買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

1 **ウェブブラウザを起動します。**

2 **ウェブブラウザの入力欄に https://Common_Name/ を入力します。**

（[Common_Name] は、IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.52を参照してください。）

例） https://192.168.1.2/（「Common_Name」がプリンタの IP アドレスである場合）
https://BRNxxxxxx/（「Common_Name」がプリンタのホスト名である場合）

補足

hosts ファイルを編集した場合や、またはドメインネームシステムを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。お買い上げ時のNetBIOS名は、「BRNxxxxxx」です。「xxxxxx」はMACアドレスの末尾6桁です。



HTTPS を使ってプリンタにアクセスすることができます。

注意

Telnet、FTP、TFTP プロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすると、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.45を参照してください。

BRAdmin Professionalを使って安全に管理する（Windows®のみ）

BRAdmin Professionalを使ってネットワークプリンタを安全に管理するには、次の点に従ってください。

- BRAdmin Professionalの最新バージョンをご使用されることをおすすめします。
  BRAdmin Professionalは、「ブラザーソリューションセンター」（http://solutions.brother.co.jp）からダウンロードできます。旧バージョンのBRAdmin Professionalを使ってブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- 旧バージョン※1 の BRAdmin からご使用のプリンタへアクセスすることを避けたい場合は、ウェブブラウザを使ってプロトコル設定画面の「SNMP詳細設定」から、旧バージョン※1のBRAdmin からのアクセスを無効にする必要があります。「ウェブブラウザで管理する」P.34を参照してください。
- Telnet、FTP、TFTP　を無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすると、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.45を参照してください。
- BRAdmin　Professional とウェブブラウザを同時にお使いになる場合は、ウェブブラウザもセキュリティの高い HTTPS プロトコルでお使いください。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」P.47を参照してください。
- 従来の製品※2 と新しい製品（NC-6500h）の混在したグループを BRAdmin Professional で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをおすすめします。

※1　Ver. 2.80以前のBRAdmin Professional、Ver. 1.10以前のMacintosh用BRAdmin Light

※2　NC-2000シリーズ、NC-2100p、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-120w、NC-130h、CN-140w、NC-8100h、NC-9100h、NC-7100w、NC-7200w、NC-2200w

IPPSを使って文書を安全に印刷する

インターネットを経由して文書を安全に印刷するには、IPPSプロトコルを利用します。

注意

IPPSを使用した通信では、本製品への不正アクセスを防止することはできません。

補足

IPPSは、Windows® 2000/XP、Windows® Server 2003、Windows Vista®で利用できます。

IPPSプロトコルを使用するには、以下のプリンタ設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をプリンタにインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.52を参照してください。
- HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。HTTPS プロトコルを有効にするには、「プロトコルを設定する」P.45を参照してください。

IPPS印刷の基本的な手順は、IPP印刷と同じです。

別のURLを指定する

URL欄には、以下の入力が可能です。
［詳細タグ］をクリックしてもプリンタのデータは表示されません。

https://Common_Name/ipp

お買い上げ時のURLです。このURLの使用をおすすめします。

https://Common_Name/ipp/port1

HPJetdirect用のURLです。

https://Common_Name/

URLの詳細を忘れた場合は、上記のテキストをそのまま入力しても、データを検索、処理することができます。

［Common_Name］（コモンネーム）は、IPアドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.52を参照してください。

例）https://192.168.1.2/（「コモンネーム」がプリンタのIPアドレスである場合）
　　https://BRNxxxxxx/（「コモンネーム」がプリンタのホスト名である場合）

ユーザー認証付Eメール通知を使用する

ユーザー認証を必要とするSMTPサーバを経由して、Eメール通知機能を使用するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスするのを防ぐものです。ウェブブラウザおよびBRAdmin Professionalを使用して設定することができます。

補足

POP3/SMTP認証の設定をEメールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

ウェブブラウザを使ってPOP3/SMTPを設定する

1 **ウェブブラウザを起動します。**

2 **ウェブブラウザの入力欄に http://ip_address を入力します。**

（[ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ブラウザに http://192.168.1.3 を入力します。

補足

hostsファイルを編集した場合や、またはドメインネームシステムを使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。お買い上げ時のNetBIOS名は、「BRNxxxxxx」です。「xxxxxx」はMACアドレスの末尾6桁です。

3 **［ネットワーク設定］をクリックします。**

4 **［ユーザ名］と［パスワード］を入力し、［OK］をクリックします。**

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

5 **［プロトコル設定］をクリックします。**

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

6 ［POP3/SMTP 詳細設定］をクリックし、POP3/SMTP の設定を変更します。



補足

- 「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、「SMTP-AUTH」を選択することをおすすめします。
- 「送信メールサーバ（SMTP）認証方式」を「POP before SMTP」に設定すると、「受信メールサーバ（POP3）」の設定が必要となります。また、「APOPを使用」をチェックして、APOP方式を使用することもできます。
- 詳細については、ウェブブラウザのヘルプ（画面上の をクリック）を参照してください。
- 設定後にテストメールを送信し、Eメール設定が正しいことを確認してください。

7 設定を変更した場合は、［OK］をクリックします。

テストメール送信設定画面が表示されます。

8 現在の設定をテストしたい場合は、画面上の指示に従ってください。

証明書を作成してインストールする

本製品では、証明書と該当する秘密鍵を設定することによって、SSL/TLS通信を行うことができます。SSL/TLS通信では、自己署名証明書と証明機関（CA）発行の証明書の2種類の証明書に対応しています。

● 自己署名証明書を使用する

本製品（プリントサーバ）自ら証明書を発行します。証明機関（CA）から証明書を取得することなく、この証明書を用いて、簡単にSSL/TLS通信を行うことができます。「自己署名証明書を作成してインストールする」P.54 を参照してください。

● 証明機関（CA）発行の証明書を使用する

既に証明機関（CA）を持っている場合、または外部の信頼された証明機関（CA）が発行した証明書を使用したい場合は、次の2つのインストール方法があります。

- 本製品（プリントサーバ）から CSR（証明書署名要求）を送信するには、「CSR を作成してインストールする」P.65 を参照してください。
- 証明書と秘密鍵をインポートするには、「証明書と秘密鍵をインポート/エクスポートする」P.67 を参照してください。

補足

- SSL/TLS通信を行う場合は、あらかじめシステム管理者にお問い合わせいただくことをおすすめします。
- 本製品は、インストールした、または以前にインポートした一対の証明書と秘密鍵のみを保存します。新しいものをインストールすると、古い証明書と秘密鍵に上書きされます。
- 本製品を工場出荷時の設定にリセットすると、インストールした証明書と秘密鍵は削除されます。本製品をリセットした後も、同じ証明書と秘密鍵を使用したい場合は、リセットする前にエクスポートしておいてください。「証明書と秘密鍵をエクスポートする」P.68 を参照してください。

証明書設定画面を表示する

証明書機能は、ウェブブラウザのみで設定できます。ウェブブラウザを使用して証明書設定画面を表示する場合は、次の手順に従ってください。

1 **ウェブブラウザを起動します。**

2 **ウェブブラウザの入力欄に http://ip_address を入力します。**

（[ip_address］はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
　　ブラウザに http://192.168.1.3 を入力します。

補足

hosts ファイルを編集した場合や、またはドメインネームシステムを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。お買い上げ時のNetBIOS名は、「BRNxxxxxx」です。「xxxxxx」はMACアドレスの末尾6桁です。

3 **[ネットワーク設定］をクリックします。**

4 **[ユーザ名］と［パスワード］を入力し、[OK］をクリックします。**

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

5 ［証明書設定］をクリックします。

右の画面から証明書を設定できます。



補足

- リンクされていないグレー表示の機能は、利用できません。
- 設定の詳細については、ウェブブラウザのヘルプ（画面上の［?］をクリック）を参照してください。

自己署名証明書を作成してインストールする

自己署名証明書を作成してプリンタにインストールする

1 **証明書設定画面の［自己署名証明書の作成］をクリックします。**

2 **コモンネームと有効期限を入力して、［OK］をクリックします。**

「自己署名証明書を作成しました」と表示されます。

補足

- コモンネームは、64 バイト未満です。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ホスト名が表示されます。
- 自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前をURLに入力すると警告画面が表示されます。

3 **無効にしたい機能のチェックボックスをチェックし、［OK］をクリックします。**

プリンタの電源を入れ直した後に、設定が有効になります。

以上の設定により、セキュリティの高い通信が可能になります。
また、セキュリティの高い通信を行うために、以下の機能の設定変更をお勧めします。設定を変更する機能を確認して、OKボタンをクリックしてください。無効にする機能の左側のボックスにチェックを入れて、OKボタンをクリックしてください。（ネットワークユーザーズガイドを参照してください。）

☑Telnet 無効
☑FTP 無効
☑TFTP 無効
☑旧バージョンのBRAdminを用いたネットワーク管理を無効

OK

補足

- セキュリティの高い通信を行うため、Telnet、FTP、TFTP、旧バージョン※1の BRAdmin ユーティリティを用いたネットワーク管理を無効にすることをおすすめします。これらを有効にすると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- チェックボックスは、現在有効になっているプロトコルや旧バージョン※1の BRAdmin ユーティリティがある場合にのみ表示されます。

※1Ver. 2.80以前のBRAdmin Professional、Ver. 1.10以前のMacintosh用BRAdmin Light

4 **自己署名証明書がプリンタのメモリに保存されました。**

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のパソコンにも自己署名証明書をインストールする必要があります。次の「プリンタの自己署名証明書をパソコンにインストールする」P.55に進んでください。

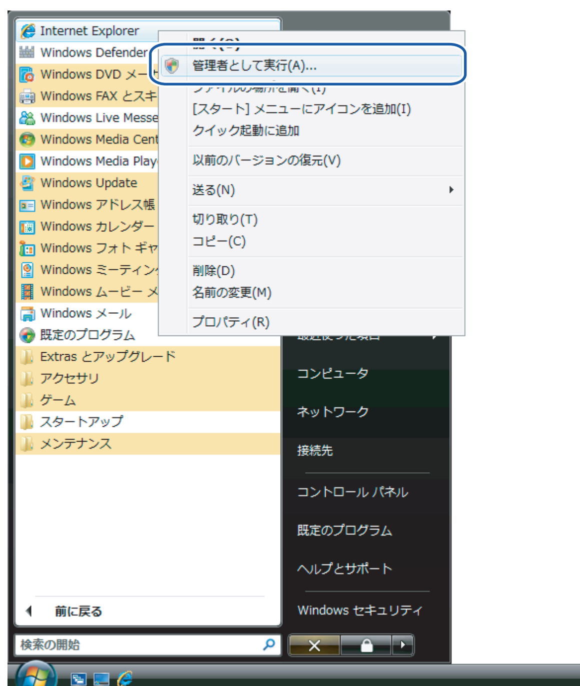
プリンタの自己署名証明書をパソコンにインストールする

補足
以下の手順は、Microsoft Internet Explorerを例にしています。他のウェブブラウザを使用している場合は、ウェブブラウザ自身のヘルプに従ってください。

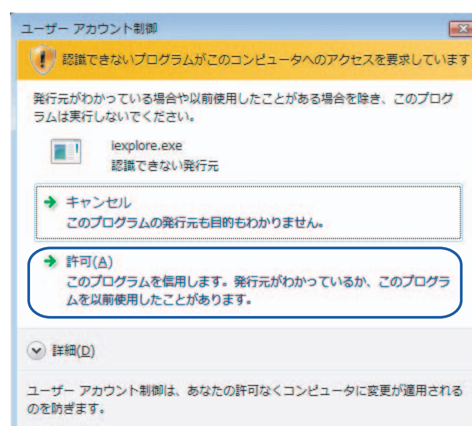
● 管理者アカウントで Windows Vista® をご使用の場合

1 ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］をクリックします。

2 ［Internet Explorer］を右クリックし、［管理者として実行］をクリックします。



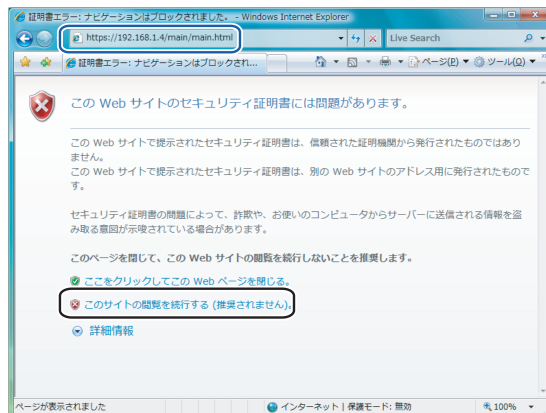
3 ［許可］をクリックします。



4 **ウェブブラウザの入力欄に https://printer_ip_address を入力します。**

（[printer_ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

次に、[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。] をクリックします。



5 **[証明書のエラー] をクリックし、次に [証明書の表示] をクリックします。**



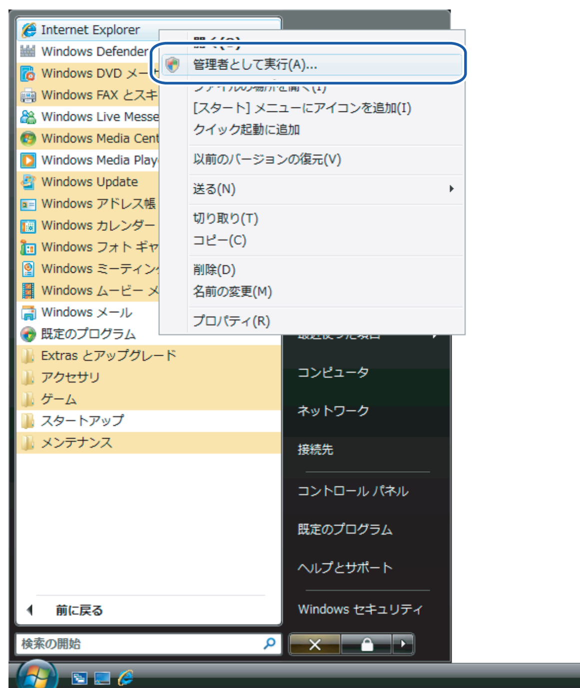
6 「Windows® 2000/XP、Windows® Server 2003 をご使用の場合」の手順 4P.62 に進んでください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

● 管理者ではないアカウントで Windows Vista® をご使用の場合

1 ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］をクリックします。

2 ［Internet Explorer］を右クリックし、［管理者として実行］をクリックします。



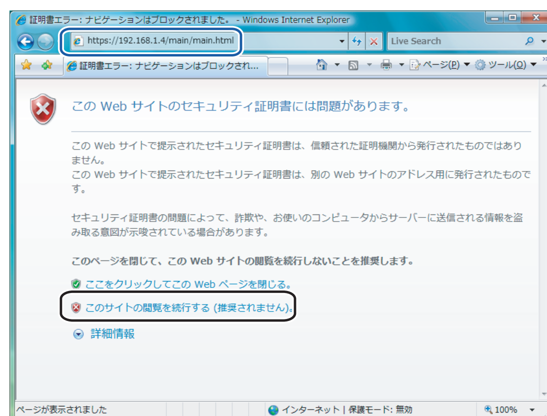
3 管理者アカウントを選択し、管理者アカウントのパスワードを入力して、［OK］をクリックします。



4 ウェブブラウザの入力欄に
https://printer_ip_address
を入力します。

（[printer_ip_address］はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

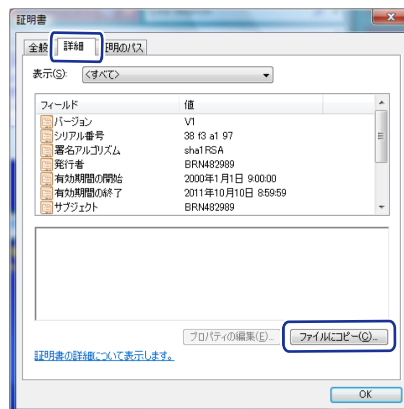
次に、[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。］をクリックします。



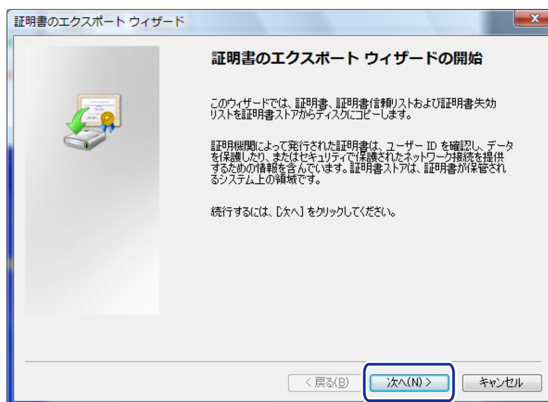
5 [証明書のエラー］をクリックし、次に[証明書の表示］をクリックします。



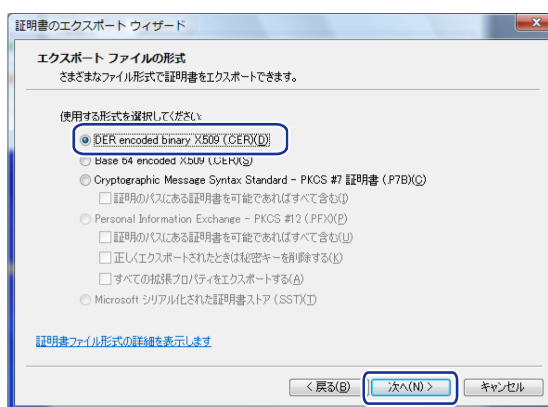
6 [詳細］タブを選択し、[ファイルにコピー］をクリックします。



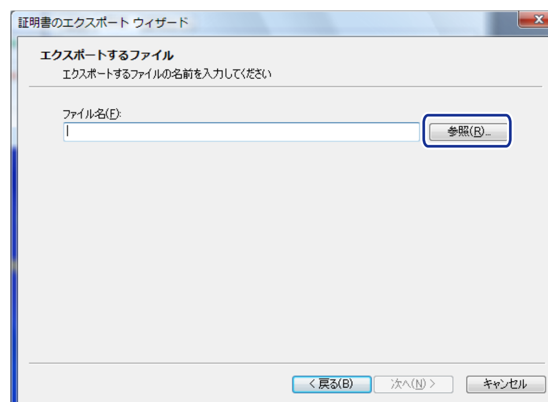
7 ［次へ］をクリックします。



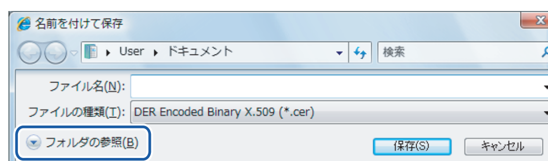
8 ［DER encoded binary X.509 (.CER)］が選択されていることを確認し、［次へ］をクリックします。



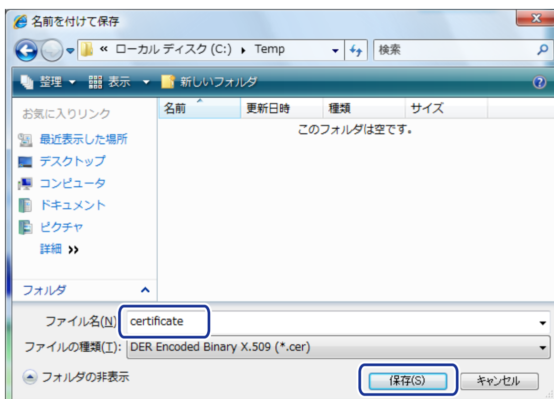
9 ［参照］をクリックします。



10 ［フォルダの参照］をクリックします。

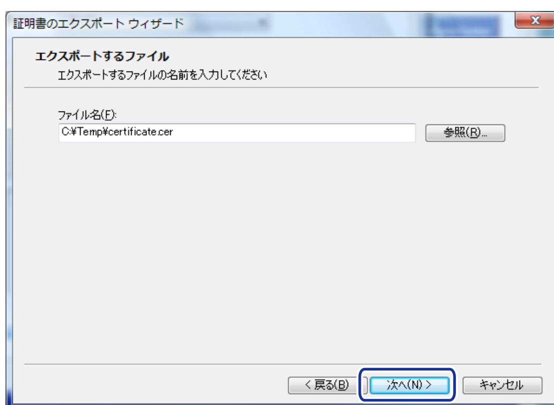


11 証明書ファイルを保存したいフォルダを選択し、ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。

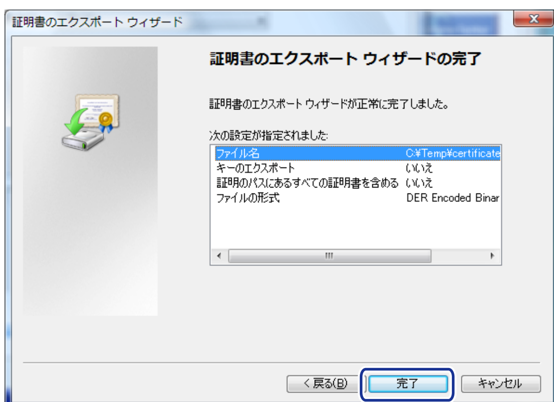


補足
デスクトップを選択した場合は、選択した管理者アカウントのデスクトップに保存されます。

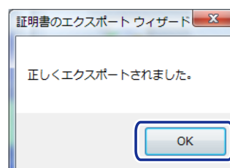
12 [次へ] をクリックします。



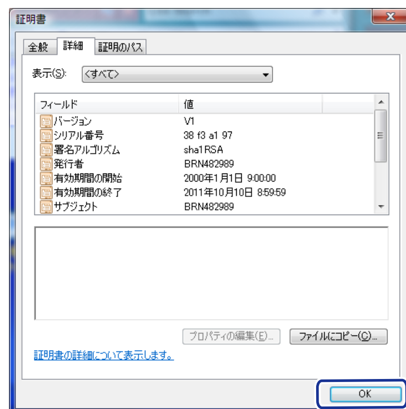
13 [完了] をクリックします。



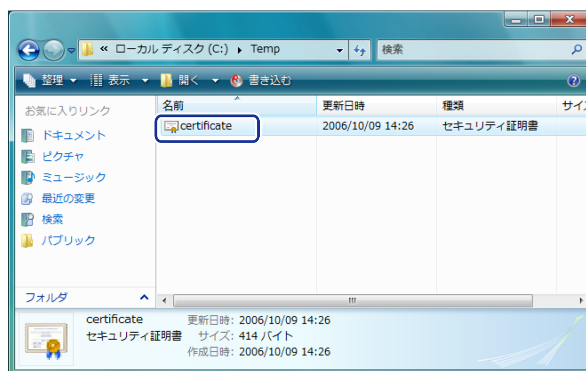
14 [OK] をクリックします。



15 ［OK］をクリックします。



16 手順 11 で証明書ファイルを保存したフォルダを開き、証明書ファイルをダブルクリックします。



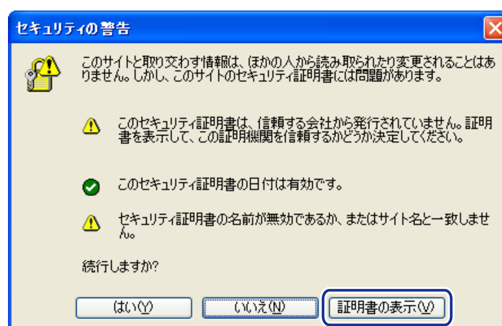
17 「Windows® 2000/XP、Windows® Server 2003 をご使用の場合」の手順 4P.62に進んでください。

● Windows® 2000/XP、Windows® Server 2003 をご使用の場合

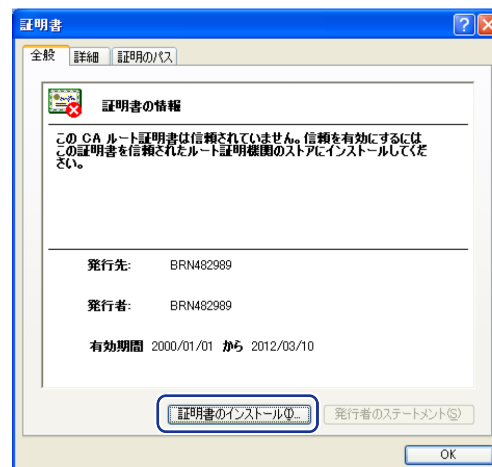
1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザの入力欄に https://printer_ip_address を入力します。
（[printer_ip_address］はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

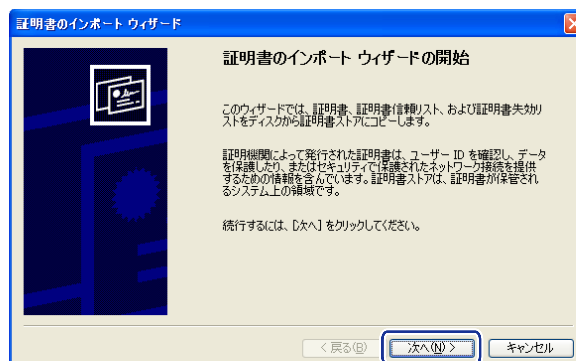
3 [証明書の表示］をクリックします。



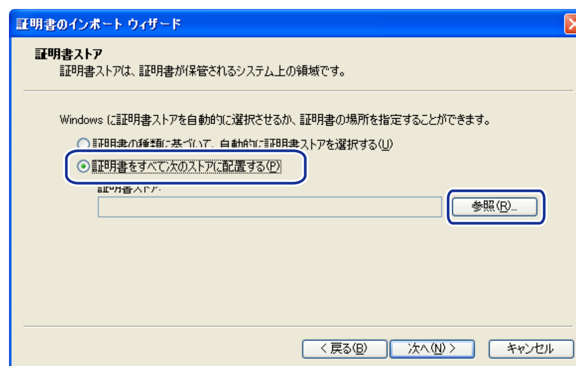
4 [全般］タブで［証明書のインストール］をクリックします。



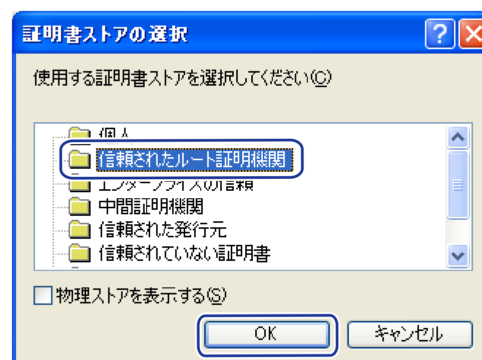
5 [次へ］をクリックします。



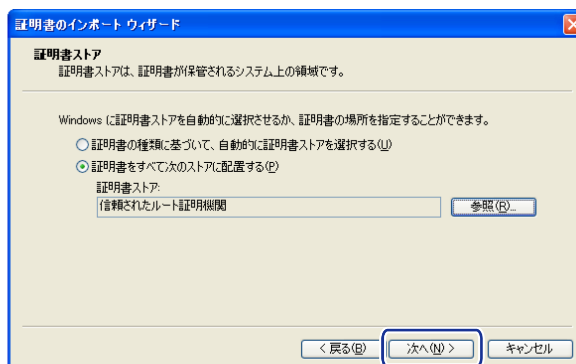
6 ［証明書をすべて次のストアに配置する］を選択し、［参照］をクリックします。



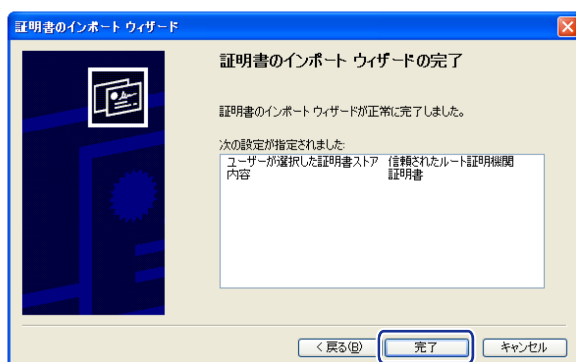
7 ［信頼されたルート証明機関］を選択し、［OK］をクリックします。



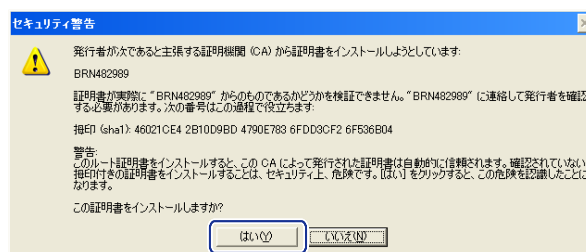
8 ［次へ］をクリックします。



9 ［完了］をクリックします。



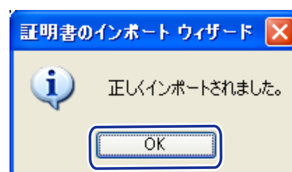
10 フィンガープリント（拇印プリント）が正しければ、［はい］をクリックします。



補足

フィンガープリント（拇印プリント）を調べるときは、「LAN設定内容リスト」を印刷します。詳しくは、P.33 を参照してください。

11 ［OK］をクリックします。



12 これで、自己署名証明書がパソコンにインストールされ、SSL/TLS 通信が可能になりました。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

CSRを作成してインストールする

CSRを作成する

1 **証明書設定画面の［CSR の作成］をクリックします。**

2 **コモンネームと組織などの情報を入力して、［OK］をクリックします。**

補足

- CSRを作成する前に証明機関（CA）発行のルート証明書をお使いのパソコンにインストールすることをおすすめします。
- コモンネームは、64 バイト未満です。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ホスト名が表示されます。
- 自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前をURLに入力すると警告画面が表示されます。
- 組織、部署、市、県の長さは、64バイト未満です。
- 国/地域は、二文字からなるISO3166国コードを使用してください。

3 **CSR の内容が表示されたら［保存］をクリックし、CSR ファイルをパソコンに保存します。**

4 **これで、CSR が作成されました。**

補足

- CSRを証明機関（CA）に送信する方法については、証明機関（CA）の方針に従ってください。
- Windows® Server 2003の「エンタープライズのルートCA」をご使用の場合は、証明書の作成時に「証明書テンプレート」で「Webサーバー」を選択することをおすすめします。詳細については、「ブラザーソリューションセンター」（http://solutions.brother.co.jp/）を参照してください。

証明書をプリンタにインストールする

証明機関（CA）から証明書を受け取ったら、以下の手順に従って本製品にインストールしてください。

注意

本製品のCSRで発行された証明書以外はインストールできません。

1 **証明書設定画面の［証明書のインストール］をクリックします。**

2 **証明機関（CA）が発行した証明書のファイルを指定し、［OK］をクリックします。**

これで、証明書が正常に作成されました。

3 **無効にしたい機能のチェックボックスをチェックし、［OK］をクリックします。**

プリンタの電源を入れ直した後に、設定が有効になります。

以上の設定により、セキュリティの高い通信が可能になります。また、セキュリティの高い通信を行うために、以下の機能の設定変更をお勧めします。設定を変更する機能を確認して、OKボタンをクリックしてください。無効にする機能の左側のボックスにチェックを入れて、OKボタンをクリックしてください。(ネットワークユーザーズガイドを参照してください。)

- ☑Telnet 無効
- ☑FTP 無効
- ☑TFTP 無効
- ☑旧バージョンのBRAdminを用いたネットワーク管理を無効

OK

補足

- セキュリティの高い通信を行うため、Telnet、FTP、TFTP、旧バージョン※1 の BRAdmin ユーティリティを用いたネットワーク管理を無効にすることをおすすめします。これらを有効にすると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- チェックボックスは、現在有効になっているプロトコルや旧バージョン※1 の BRAdmin ユーティリティがある場合にのみ表示されます。

※1 Ver. 2.80以前のBRAdmin Professional、Ver. 1.10以前のMacintosh用BRAdmin Light

4 **証明書がプリンタのメモリに保存されました。**

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のパソコンにもパソコンにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をインポート/エクスポートする

証明書と秘密鍵をインポートする

1 **証明書設定画面の［証明書と秘密鍵のインポート］をクリックします。**

2 **インポートしたいファイルを指定します。**

3 **ファイルが暗号化されている場合は、パスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

4 **無効にしたい機能のチェックボックスをチェックし、［OK］をクリックします。**

プリンタの電源を入れ直した後に、設定が有効になります。

以上の設定により、セキュリティの高い通信が可能になります。
また、セキュリティの高い通信を行うために、以下の機能の設定変更をお勧めします。設定を変更する機能を確認して、OKボタンをクリックしてください。無効にする機能の左側のボックスにチェックを入れて、OKボタンをクリックしてください。(ネットワークユーザーズガイドを参照してください。)

- ☑Telnet 無効
- ☑FTP 無効
- ☑TFTP 無効
- ☑旧バージョンのBRAdminを用いたネットワーク管理を無効

OK

補足

- セキュリティの高い通信を行うため、Telnet、FTP、TFTP、旧バージョン※1 の BRAdmin ユーティリティを用いたネットワーク管理を無効にすることをおすすめします。これらを有効にすると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- チェックボックスは、現在有効になっているプロトコルや旧バージョン※1 の BRAdmin ユーティリティがある場合にのみ表示されます。

※1Ver. 2.80以前のBRAdmin Professional、Ver. 1.10以前のMacintosh用BRAdmin Light

5 **これで、証明書と秘密鍵がプリンタにインポートされました。**

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のパソコンにもパソコンにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をエクスポートする

1 証明書設定画面の［証明書と秘密鍵のエクスポート］をクリックします。

2 ファイルを暗号化したい場合は、パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

注 意

パスワードが空白のままだと、暗号化されません。

3 確認のため、再度パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

4 ファイルを保存したい場所を指定します。

5 これで、証明書と秘密鍵がパソコンにエクスポートされました。

補 足

エクスポートしたファイルをインポートすることもできます。

4章

Windows®環境で使う

■ ネットワークプリンタとして使う 70
LPR（Standard TCP/IP）で印刷する 70
プリンタドライバのインストール （Windows® 2000/XP/Windows Vista®/ Windows Server® 2003）........ 71
■ ネットワークスキャン機能の設定 74
ネットワークスキャン機能とは 74
ネットワークスキャン機能を使用する前に 74
■ ネットワークPCファクス機能を使う （MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ） 77
ネットワークPCファクス機能とは 77
ネットワークPCファクス機能を使う準備 77
■ インターネット印刷を使う 78
インターネット印刷とは 78
インターネット印刷を使う準備 78
別のURLを指定する 83

ネットワークプリンタとして使う

LPR（Standard TCP/IP）で印刷する

概要

TCP/IPプロトコルを使用して、本製品から直接印刷出力することができます。
ネットワークサーバなどは経由せずに印刷します。
プリンタドライバの詳しい使い方については、「画面で見るマニュアル」（HTML形式）を参照してください。

● 条件

- コンピュータにLANボードが装備され、TCP/IPプロトコルがインストールされていること。
- 本製品にIPアドレス、サブネットマスクなどが設定されていること。
- コンピュータと本製品が、同一のネットワーク上にあること。

● 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. コンピュータに本製品の関連付けをします。P.71を参照してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

プリンタドライバのインストール (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003)

すでにプリンタドライバがインストールされている場合はP.73を参照してください。

1 付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

2 [その他ソフトウェアとユーティリティ] をクリックする



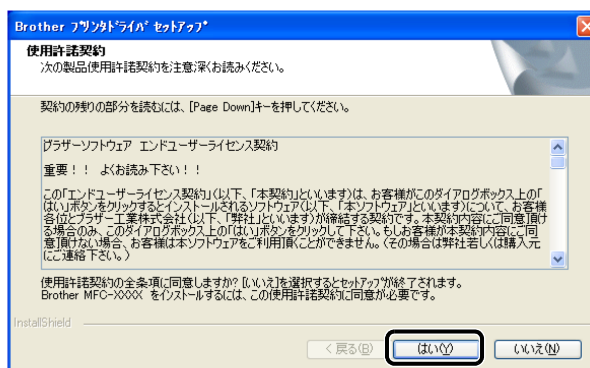
3 [プリンタドライバ（ネットワーク対応のみ）] をクリックする



4 [次へ] をクリックする

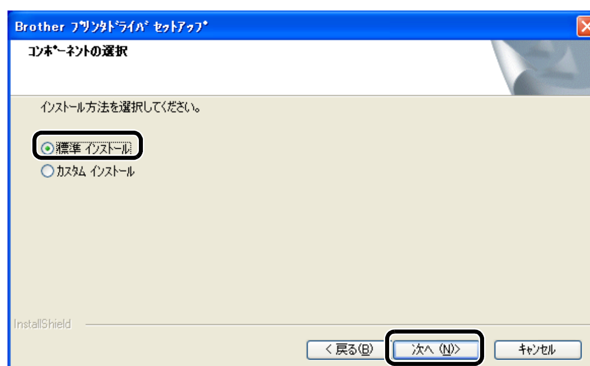


5 使用許諾契約の内容を確認し、［はい］をクリックする

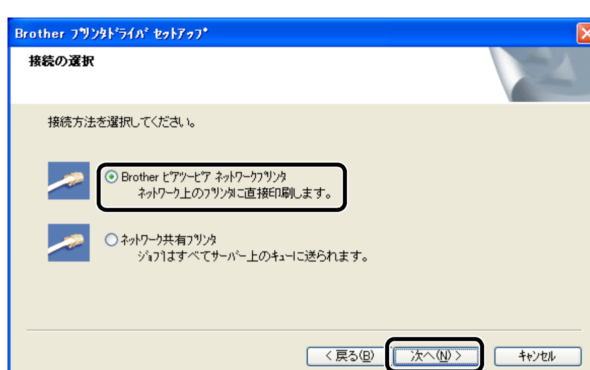


6 ［標準インストール］を選択し、［次へ］をクリックする

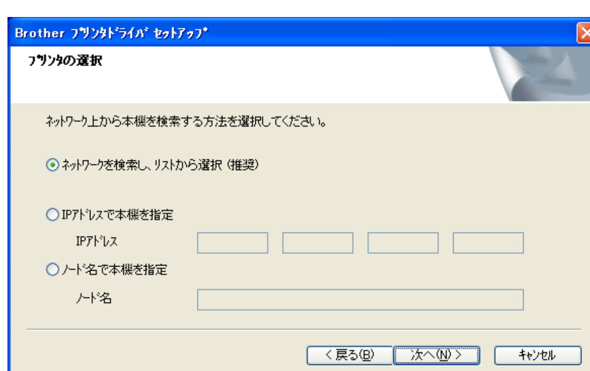
BR-Script3 プリンタドライバをインストールしたい場合は、［カスタム インストール］を選択し、画面の指示に従って設定を進めます。



7 [Brother ピアツーピア ネットワークプリンタ] を選択し、［次へ］をクリックする

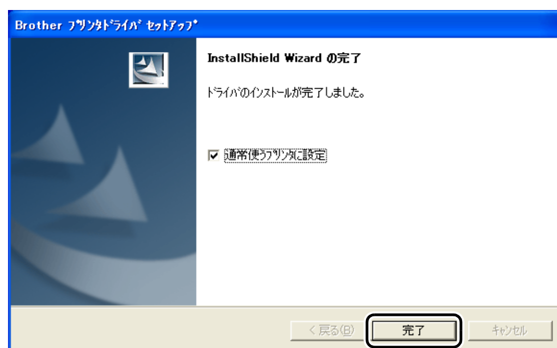


8 プリンタの選択方法を選択し、画面の指示に従ってセットアップを進める



9 [完了] をクリックする

プリンタドライバのインストールは完了しました。



プリンタドライバがインストール済の場合（Windows® 2000/XP/Windows Vista®/ Windows Server® 2003）

すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、以下の手順でTCP/IPポートの追加と本製品の関連付けをします。

1 Windows® XP/Windows Server® 2003 の場合は、[スタート] メニューから [プリンタと FAX] をクリックする

Windows® 2000 の場合は、[スタート] メニューから [設定]-[プリンタ] の順にクリックします。
Windows Vista® の場合は、［スタート］メニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックします。

2 設定するプリンタを右クリックする

3 表示されるメニューから [プロパティ] をクリックする

4 [ポート] タブをクリックし、[ポートの追加] をクリックする

5 [Standard TCP/IP Port] を選択し、[新しいポート] をクリックする

[標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード] が表示されます。

6 画面の指示に従ってセットアップを進める

ネットワークスキャン機能の設定

ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、また E メールの添付ファイルとして他のコンピュータに送り届けることや、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。詳しい使い方については、「画面で見るマニュアル」（HTML形式）を参照してください。

注 意

■ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するには P.19 を参照してください。
（ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。）
- ウェブブラウザから設定するには P.34 を参照してください。

ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

スキャナドライバのインストール

付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れると、自動的にドライバのインストールが始まります。画面の指示に従って、ドライバのインストールを継続してください。詳しくは、かんたん設置ガイド「STEP2 パソコンに接続する」を参照してください。

補 足

「スキャン to FTP」機能は、コンピュータを使用せずに本製品単独で実行できる機能ですので、コンピュータにスキャナドライバをインストールしていなくても使用できます。

設定の変更

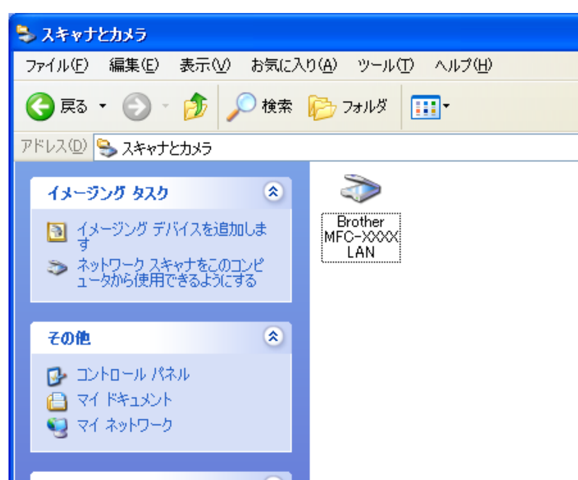
ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定を変更してください。

1 「スキャナとカメラ」アイコン（スキャナとカメラ）をダブルクリックする

- Windows® XPの場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］－（［プリンタとその他のハードウェア］）－［スキャナとカメラ］を選択します。
- Windows® 2000の場合
  スタートメニューから［設定］－［コントロールパネル］－［スキャナとカメラ］を選択します。
- Windows Vista®の場合
  スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］をクリックして［スキャナとカメラ］をクリックします。

2 スキャナのアイコンを選択し、［ファイル］－［プロパティ］をクリックする

- アイコンを右クリックしたポップアップメニューからも操作できます。
- Windows Vista®の場合は、スキャナのアイコンを選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。



補足

Winodws Vista®の場合、［ユーザーアカウント制御］画面が表示されたら次の操作をします。

・アドミニストレータ（Administrator）権限でログオンしている場合は、［続行］をクリック



・一般ユーザーとしてログオンしている場合は、パスワードを入力して［OK］をクリック



3 ［ネットワーク設定］タブで設定項目を更新する

IP アドレスを更新する場合

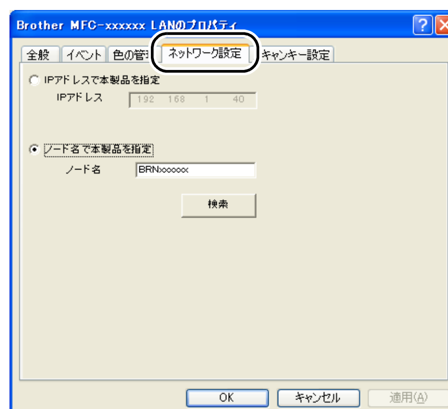
- 本製品のIPアドレスを入力します。

名前を変更する場合

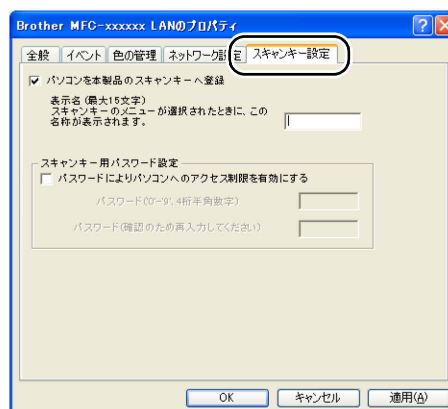
- 本製品のノード名を「ノード名」欄に入力します。

使用可能な機器一覧から指定して変更する場合

- ［検索］をクリックし、既存のLAN内からネットワークスキャンが使用できるブラザー製品を検索後、指定して［OK］をクリックします。

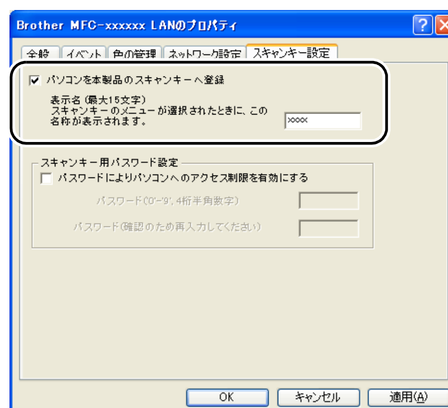


4 ［スキャンキー設定］タブをクリックする



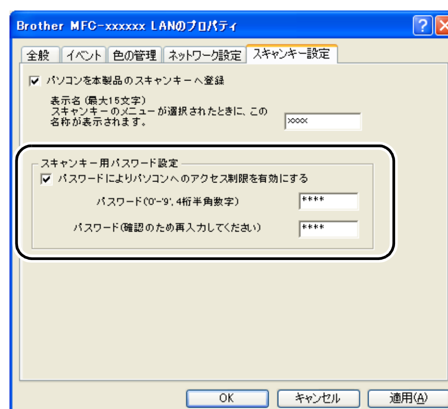
5 スキャン画像を取り込むコンピュータの名を登録する

本製品の「スキャン」ボタンを操作した時にコントロールパネル上に表示されるこのコンピュータの名です。初期設定は、お使いのコンピュータ名です。コンピュータ名は、マイコンピュータのプロパティ画面で確認できます。



6 他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する

パスワードを設定しておくと、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。



7 ［OK］をクリックする

設定が変更されます。

ネットワークPCファクス機能を使う（MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ）

ネットワークPCファクス機能とは

ネットワークPCファクス機能は、プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。
ネットワーク PC ファクス機能を使うと、コンピュータ上のどのようなアプリケーションからでもプリンタに印刷する感覚で、本製品から相手先ファクス機器に文書を送信できます。
また送付書をつけることも可能で、コンピュータ上で送付先の電話帳を管理できるので非常に便利です。
ファクス文書が経由するのは通常の電話線です。

ネットワークPCファクス機能を使う準備

ネットワークPCファクス機能では、アプリケーションから印刷を実行し、ドライバとしてBrother PC -FAXを選択するとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PC ファクス機能の詳細な説明については、「画面で見るマニュアル」（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

PCファクスの関連付け

1 **Windows® XP の場合は、［スタート］メニューから、［設定］ － ［プリンタ］の順に選択する**

Windows® 2000 の場合は、［スタート］メニューから［ 設定］-［ プリンタ］の順にクリックします。
Windows Vista® の場合は、［スタート］メニューから［コントロールパネル］をクリックして開き、［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。

2 **ブラザー PC-FAX のアイコンを右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする**

3 **［ポート］タブをクリックし、使用するポートを選択する**

複数台のブラザー MFC 製品をご使用の場合は、ネットワーク PC ファクスに使用する MFC 製品をここで指定してください。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



4 **［OK］をクリックする**

これで設定は完了です。

● **ネットワーク PC ファクスを使用して通常のファクス機器に電話線を通じてファクスを送信する**

送信先の欄に送付先のファクス番号を入力するか、またはあらかじめファクス番号を設定したアドレス帳からメンバーを選択してください。

インターネット印刷を使う

インターネット印刷とは

Windows® 2000/XP、Windows Vista®では、IPP（Internet Printing Protocol）を使用すると、インターネットを通じてプリンタに印刷ジョブを送ることができます。
例えば、東京のオフィスにあるコンピュータ上のMicrosoft® Excelアプリケーションソフトのデータを、大阪のオフィスにあるプリンタで印刷することができます。

インターネット印刷を使う準備

Windows® 2000/XP、Windows Vista®のIPP(Internet Printing Protocol)を用いたインターネット印刷機能を使用するには、次の手順を実行します。

注意

■本製品のIPアドレス設定が完了し、ネットワークに接続されている必要があります。

■インターネットを経由して遠隔地にある本製品に IPP 印刷機能で印刷する場合は、サーバまたはルータに各種の設定が必要です。

■サーバまたはルータの設定方法や、設定するデータはネットワーク管理者にお問い合わせください。

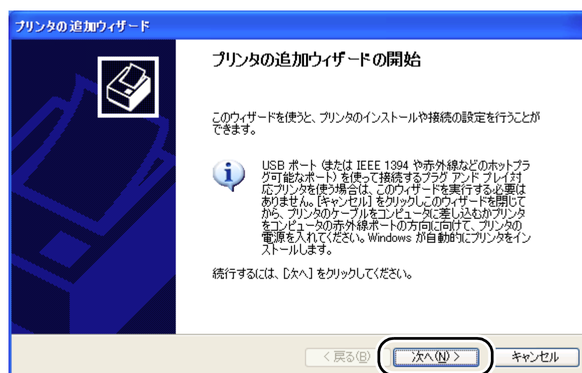
Windows® 2000/XP の場合

1 **［スタート］メニューから［プリンタと FAX］をクリックし、［プリンタの追加］をクリックする**

- Windows® 2000の場合は、［スタート］メニューから［設定］－［プリンタ］の順にクリックし、［プリンタの追加］をダブルクリックします。

［プリンタの追加ウィザード］が表示されます。

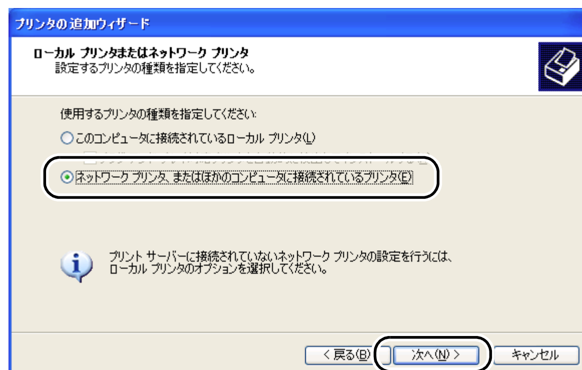
2 **［次へ］をクリックする**



3 ［ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ］をクリックし、［次へ］をクリックする

- Windows® 2000の場合は、［ネットワークプリンタ］をクリックします。

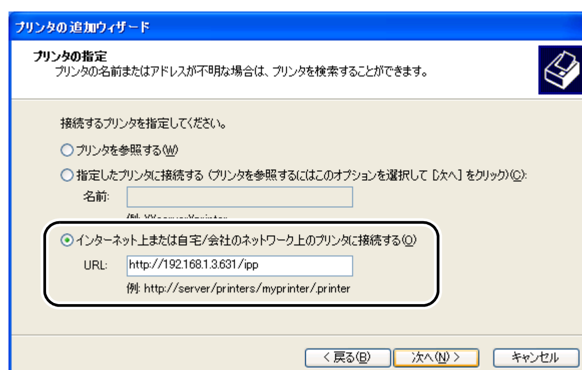
［プリンタの指定］画面が表示されます。



4 ［インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンタに接続する］をクリックし、［URL:］ボックスに次のURL を入力する

- Windows® 2000の場合は、［インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します］をオンにし、［URL:］ボックスに次のURLを入力します。

http://*ip_address*:631/ipp



ip_address は本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
　http://192.168.1.3:631/ipp

補足

URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。

5 ［次へ］をクリックする

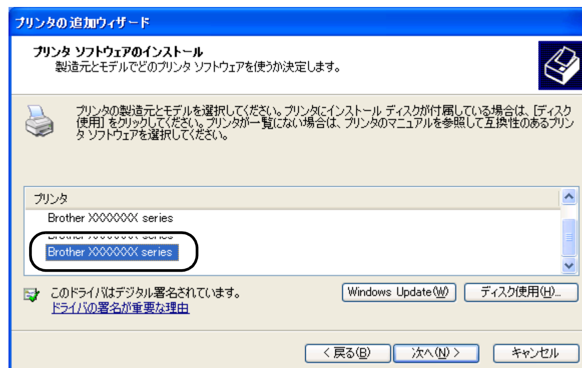
指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。
  ドライバをデフォルトのプリンタドライバにするかどうかを選択し［次へ］をクリックします。
  手順8に進んでください。

- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順6に進んでください。

6 使用するプリンタドライバを指定する

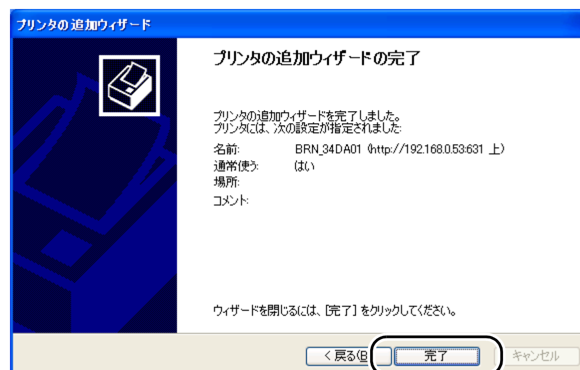
［ディスク使用］をクリックし、CD-ROM 上の保存場所を参照します。
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。



7 ［次へ］をクリックする

8 ［完了］をクリックする

これで、Windows® 2000/XP のインターネット印刷機能の設定は完了しました。
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。

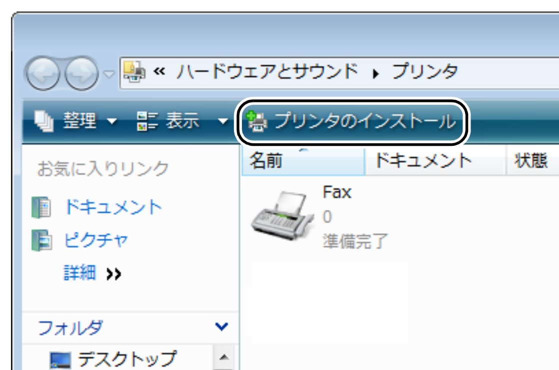


Windows Vista®の場合

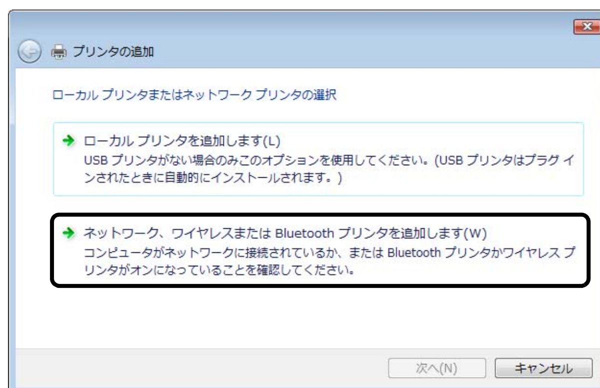
1 ［スタート］メニュー［コントロールパネル］をクリックし、［ハードウェアとサウンド］の［プリンタ］をクリックする

2 ツールバーの［プリンタのインストール］をクリックする

［プリンタの追加］が表示されます。

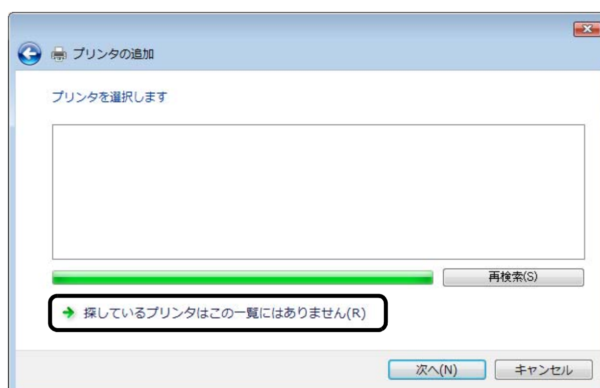


3 ［ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを追加します］をクリックする



4 ［探しているプリンタはこの一覧にありません］をクリックする

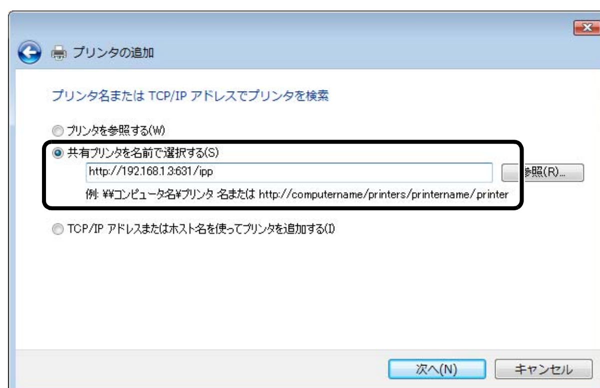
［プリンタ名または TCP/IP アドレスでプリンタを検索］が表示されます。



5 ［共有プリンタを名前で解決する］をクリックし、ボックスに次の URL を入力する

http://*ip_address*:631/ipp

ip_address は本製品の IP アドレスです。
例）本製品のIPアドレスが192.168.1.3の場合
http://192.168.1.3:631/ipp



補足

URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。

6 ［次へ］をクリックする

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。
  ドライバをデフォルトのプリンタドライバにするかどうかを選択し［次へ］をクリックします。
  手順9に進んでください。

- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順7に進んでください。

7 使用するプリンタドライバを指定する

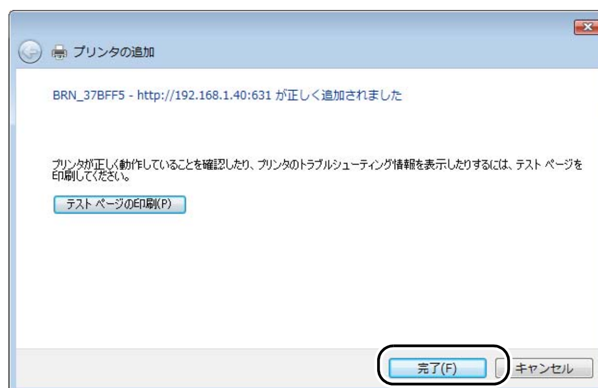
［ディスク使用］をクリックし、CD-ROM 上の保存場所を参照します。
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。



8 ［次へ］をクリックする

9 ［完了］をクリックする

これで、Windows Vista® のインターネット印刷機能の設定は完了しました。
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。



別のURLを指定する

［URL］ボックスには、次の何種類かの入力が可能です。



「詳細」タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

http://*ip_address*:631/ipp
デフォルトのURLです。このURLの使用をお勧めします。

http://*ip_address*:631/
URLの詳細を忘れた場合は、このテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

本製品に内蔵されているサービス名を使用する場合は、次のURLも使用できます。
http://*ip_address* : 631/brnxxxxxx_p1
http://*ip_address* : 631/binary_p1
http://*ip_address* : 631/text_p1
http://*ip_address* : 631/postscript_p1
http://*ip_address* : 631/pcl_p1
http://*ip_address* : 631/brnxxxxxx_p1_at

*ip_address*は本製品のIPアドレスです。
xxxxxxはMACアドレスの末尾6桁です。

5章

Macintosh環境で使う

■ ネットワークプリンタとして使う 85
設定の流れ 85
プリントサーバ（本製品）の設定 85
■ BR-Script3プリンタドライバのインストール 86
BR-Script3プリンタドライバの設定 86
■ ネットワークスキャン機能の設定 90
ネットワークスキャン機能とは 90
ネットワークスキャン機能を使用する前に 90
■ ネットワークPCファクス機能を使う
（MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ） 92
ネットワークPCファクス機能とは 92

ネットワークプリンタとして使う

設定の流れ

本製品は、Mac OS X　10.2.4以降でサポートされている簡易ネットワーク設定機能に対応しています。
簡易ネットワーク設定機能を使用すれば、ネットワーク上に接続されているプリンタを簡単に使用できるようになります。

プリントサーバ（本製品）の設定

TCP/IPを使用する場合は、プリントサーバに適切なIPアドレスを設定する必要があります。
Mac OS Xは、APIPA（AutoIP）機能に対応しています。APIPAを使用している環境であれば、プリントサーバもAPIPAを使用して自動的にIPアドレスを割り当てるため、IPアドレスを設定しなくてもプリントサーバを使用できます。
IPアドレスの設定方法についてはP.23を参照してください。

プリントサーバの設定を行う

必要に応じてプリントサーバに IP アドレスの設定などを行います。
わからない場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。

↓

簡易ネットワーク設定機能の設定を行う

ネットワーク上のプリンタをリストアップし、使用できるように設定します。

補足

●Mac OS X 10.2.4以降の場合
簡易ネットワーク設定機能を使用するとネットワークプリンタとして利用できます。設定方法については、かんたん設置ガイド「STEP2 パソコンに接続する」を参照してください。

BR-Script3プリンタドライバのインストール

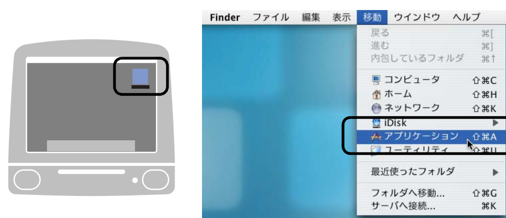
BR-Script3ドライバは、Macintosh用ドライバをインストールすると自動的にインストールされます。Macintosh用ドライバのインストール方法は、かんたん設置ガイドを参照してください。

BR-Script3プリンタドライバの設定

BR-Script3 プリンタとして使用するには、本製品と Macintosh を接続する前にエミュレーションモードを「BR-Script3」に設定する必要があります。詳しくは、「画面で見るマニュアル」(HTML形式)の「プリンタとして使う」を参照してください。
BR-Script3プリンタドライバは、PCファクス機能には対応していません。
Mac OS Xは、1つのプリンタドライバのみ登録することができます。すでに[プリンタリスト]にブラザープリンタドライバが登録されている場合は、いったんドライバを削除してBR-Script3プリンタドライバをインストールする必要があります。

Mac OS X 10.2.4～10.4.xの場合

1 ［移動］メニューの［アプリケーション］を選択する



2 ［ユーティリティ］フォルダをダブルクリックする



3 ［プリンタ設定ユーティリティ］アイコンをダブルクリックする

Mac OS X 10.2.x の場合は、［プリントセンター］をダブルクリックします。



4 ［追加］をクリックする



5 [IP プリント］を選択する

Mac OS X 10.4.x の場合は、[IP プリンタ］をクリックします。



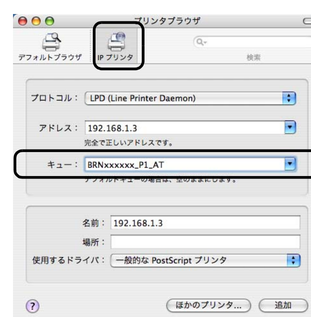
6 本製品の IP アドレスとキュー名を入力する

キュー名を指定するときは、BRNxxxxxx_P1_AT を使用してください。（xxxxxx は Mac アドレスの末尾 6 桁です。）

Mac OS X 10.2.4～10.3.x

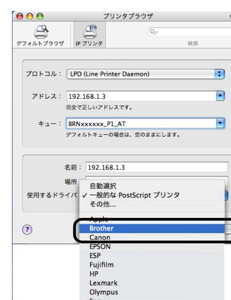


Mac OS X 10.4.x



7 [プリンタの機種] から [Brother] を選択する

Mac OS X 10.4.x の場合は、[使用するドライバ] から [Brother] を選択してください。



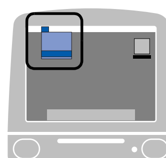
8 [Brother xxx-xxxxxx（モデル名）BR-Script3] を選択し、[追加] をクリックする

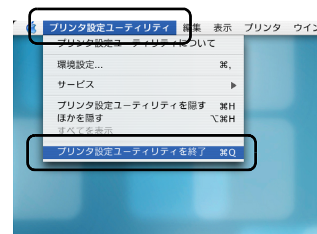
- プリンタが表示されます。
- プリンタを選択して[デフォルトにする]をクリックすると、通常使用するプリンタとして設定されます。





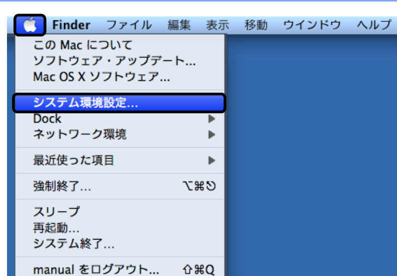
9 [プリンタ設定ユーティリティ] メニューから [プリンタ設定ユーティリティを終了] を選択する





Mac OS X 10.5.xの場合

1 メニューから［システム環境設定］を選択する



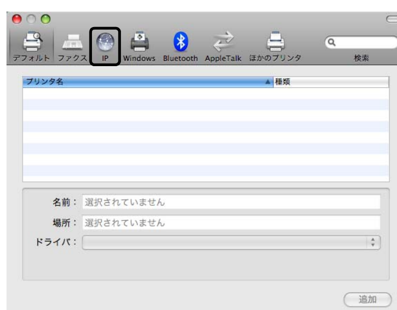
2 ［プリントとファクス］アイコンをクリックする



3 ＋ をクリックする

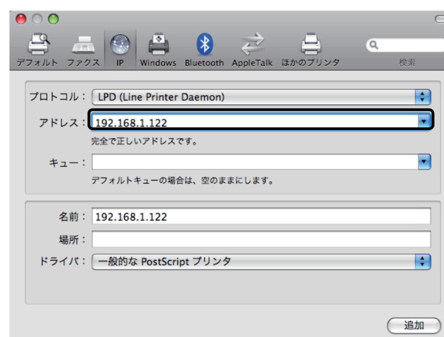


4 ［IP］アイコンをクリックする



5 本製品の IP アドレスを入力する

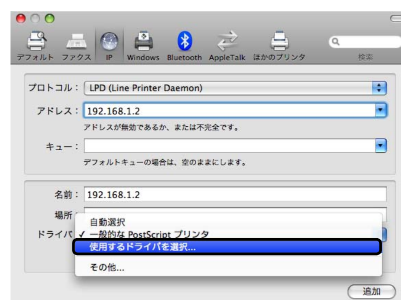
キュー名を指定するときは、BRNxxxxxx_P1_AT を使用してください。（xxxxxx は Mac アドレスの末尾 6 桁です。）



補足

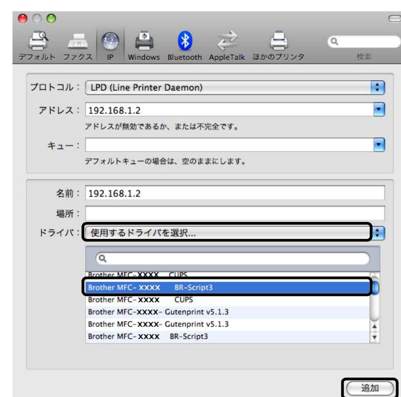
LAN設定内容リスト印刷して、IPアドレスを調べることができます。P.33 を参照してください。

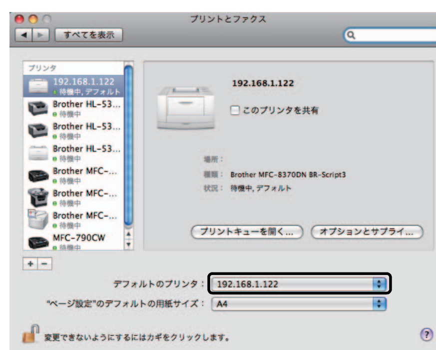
6 ［ドライバ］から［使用するドライバを選択 ...］をクリックする



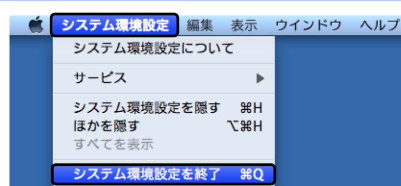
7 ［Brother xxx-xxxxxx（モデル名）BR-Script3］を選択し、［追加］をクリックする

- プリンタが表示されます。
- ［デフォルトのプリンタ］からプリンタを選択すると、通常使用するプリンタとして設定されます。





8 ［システム環境設定］メニューから［システム環境設定を終了］を選択する



本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows®環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

ネットワークスキャン機能の設定

ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、またE メールの添付ファイルとして他のコンピュータに送り届けることや、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。詳しい使い方については、「画面で見るマニュアル」（HTML 形式）を参照してください。

注意

■ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するにはP.19を参照してください。
  （ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。）
- ウェブブラウザから設定するにはP.34を参照してください。

ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

スキャナドライバのインストール

付属のCD-ROM をCD-ROM ドライブに入れると、自動的にドライバのインストールが始まります。画面の指示に従って、ドライバのインストールを継続してください。詳しくは、かんたん設置ガイド「STEP2 パソコンに接続する」を参照してください。

補足

●「スキャン to FTP」機能は、ドライバのインストールを実施しなくても使用することができます。

設定の変更

ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定をしてください。

1 **［Library］フォルダの［Printers］-［Brother］-［Utilities］-［DeviceSelector］の［デバイスセレクタ］をダブルクリックする**

［デバイスセレクタ］ウィンドウが開きます。

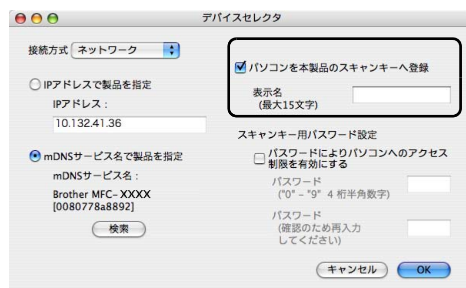
2 **IP アドレスまたは mDNS サービス名を入力する**

IP アドレスを変更する場合は、新しい IP アドレスを入力します。
［検索］ボタンをクリックすると、接続可能な製品が表示されますので、表示されるリストから選択することもできます。



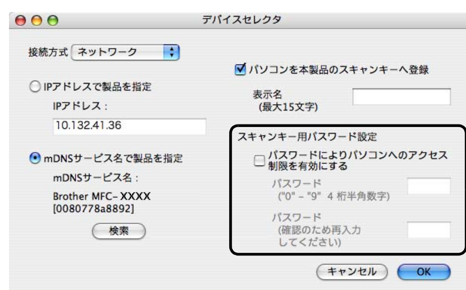
3 スキャン画像を取り込むコンピュータ名を登録する

本製品の「スキャン」ボタンを操作した時に本製品の液晶ディスプレイ上に表示されるこのコンピュータ名です。



4 他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する

パスワードを設定しておくと、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。



5 ［OK］をクリックする

ネットワークPCファクス機能を使う（MFC-9440CN/MFC-9450CDNのみ）

ネットワークPCファクス 機能では、アプリケーションの［ファイル］メニューから［プリント］を選び、プリントダイアログで「ファクス送信」を選ぶとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PCファクス 機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル　パソコン活用ガイド「PCファクス」を参照してください。

ネットワークPCファクス機能とは

PC ファクス 機能を利用すると、コンピュータ上のアプリケーションで作成した印刷データを、ネットワーク上の本製品からファクスとして送信できます。
PCファクス を使うときは、あらかじめPCファクス アドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクス送信先を簡単に設定できます。

補足

ファクスの送信手順やアドレス帳の使い方などについては、「画面で見るマニュアル」（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

6章

トラブルシューティング

■ 概要 94
■ 接続と設定についての問題 95
■ プロトコル固有の問題 97
TCP/IPのトラブルシューティング 97
Windows® 2000/XP/Winodws Vista®のIPPのトラブルシューティング 98
ウェブブラウザのトラブルシューティング 98
■ Windows®のインターネット接続ファイアウォールの問題 99
Windows® XP Service Pack2の場合 100
Winodws Vista®の場合 101
■ アンチウイルスソフトの問題 102
■ その他の問題 103

概要

ネットワークプリンタを使用する上で、発生する可能性のある問題とその解決方法について説明しています。

問題の種類を下記の4つに分けています。該当する問題のページを参照してください。

- 接続と設定についての問題の解決方法についてはP.95を参照してください。
- プロトコル固有の問題の解決方法についてはP.97を参照してください。
- ファイアウォールの問題の解決方法についてはP.99を参照してください。
- その他の問題の解決方法についてはP.103を参照してください。

接続と設定についての問題

ネットワークを通じて印刷することができない場合は、次の項目をチェックします。

1 本製品がオンラインであり、印刷できる状態であることを確認する

補足
LAN 設定内容リスト印刷して、ノード名（NetBIOS 名）と MAC アドレスを調べることができます。
P.33 を参照してください。

ネットワークを通じて正常に印刷されない場合、以下を確認してください。

a. 本体背面の 10BASE/100BASE-TX ポートの近くにあるネットワーク LED が点滅していない場合は、ネットワークの設定に異常があると考えられます。

b. この場合は、LAN 設定をお買い上げ時のデフォルトにリセットします。
- LAN 設定の初期化を実行後、LAN 設定内容リストの出力で LAN 設定内容リストを印刷してください。詳しくは、P.32 P.33 を参照してください。

2 設定情報は印刷できるのに通常のドキュメントが印刷できない場合は、次の手順を実行する

次の手順を実行しても印刷できない場合は、ハードウェアまたはネットワークに問題があると考えられます。

a. TCP/IP を使用している場合
コンピュータから次のコマンドを実行し、本製品へのpingテストを行います。

ping *ip_address*

*ip_address*は本製品のIPアドレスです。
本製品にIPアドレスがロードされるまでに、IPアドレスの設定後最大2分間程度かかる場合があります。
- 応答が正しく返される場合は、P.97 の各トラブルシューティングへ進みます。
例） **C:¥>ping 192.168.1.3**

```
Pinging 192.168.1.3 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.3: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.1.3: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.1.3: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.1.3: bytes=32 time<10ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.1.3:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
    Minimum = 0ms, Maximum =  0ms, Average =  0ms
```

- 応答が返らない場合は、手順 3、4 を確認した後でP.97へ進みます。
  例）**C:¥>ping 192.168.1.3**

```
Pinging 192.168.1.3 with 32 bytes of data:

Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 192.168.1.3:
    Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
    Minimum = 0ms, Maximum =  0ms, Average =  0ms
```

3 手順 2 で接続できなかった場合は、次の項目を確認する

a. 本製品がオンラインになっていることを確認します。
b. 接続ケーブルとネットワークとの接続をチェックし、LAN 設定内容リストを印刷します。詳しくはP.33を参照してください。<Network Statistics> セクションに <Packets Received> でデータがあるかどうかを調べます。
c. LED の表示をチェックします。
本製品の背面には 2 個のネットワーク LED があります。この LED を使用して、問題の診断を行うことができます。
- 消灯
  LED が両方とも消灯している場合は、ネットワークに接続されていないことを示します。
- Link/Activity（緑色）
  リンク On：点灯　Activity：消灯
- Speed（オレンジ色）
  100BASE：点灯　10BASE：消灯

4 本製品とホストコンピュータとの間にブリッジまたはルータが存在する場合は、ホストから本製品へのデータの送受信ができるように設定されていることを確認する

例えば、ブリッジは特定の IP アドレスのデータだけが通過できるように設定されていること（フィルタリング）があります。本製品の IP アドレスが含まれるように設定してください。
ルータは特定のプロトコルだけを通過させるように設定されていることがあります。本製品で使用するプロトコルが通過できるように設定されていることを確認してください。

本書の使い方・目次
ネットワークで使う前に
ネットワークの設定
セキュリティ機能の設定
Windows® 環境で使う
Macintosh環境で使う
トラブルシューティング
付録

プロトコル固有の問題

TCP/IPのトラブルシューティング

ハードウェアとネットワークのチェックでは問題がないにも関わらず、TCP/IPを使用してネットワークプリンタに正しく印刷できない場合は、次の項目をチェックします。

補足

設定エラーによる原因をなくすため、項目をチェックする前に次の手順を行うことをお勧めします。

- 本製品の電源を入れ直す。
- LAN設定の初期化を行ってから設定し直し、新しい印刷キューを作成します。

1 IP アドレスの不一致や重複が原因で問題が発生していないか確認する

- 本製品に正しいIPアドレスがロードされていることを確認します。
- ネットワーク上のノードで、このIPアドレスが使用されていないことを確認します。TCP/IP印刷の問題で最も多い原因はIPアドレスの重複です。

2 同一のネットワークに接続されているか確認する

同一セグメント（ルータ内で物理的に同じ接続）であっても、IP アドレスに誤りがあると、別のネットワークに接続されていると認識されます。すでに利用中のコンピュータがある場合は、接続しているネットワークの情報を調べます。

- Windows® 2000/XP/Winodws Vista®の場合
  Windows®メニューのコマンドプロンプトからipconfig/allを実行します。
- Mac OS X 10.2.4以降の場合
  「システム環境設定」の「ネットワーク」で確認できます。

例）利用中のコンピュータの情報が以下の場合

IP アドレス	192.168.1.50
サブネットマスク	255.255.255. 0

本製品の IP アドレスが、192.168.1.x に設定されているかを確認してください。例えば、192.168.0.x となっていると、異なるネットワークアドレスと認識されるため、印刷できなくなります。

3 ルータを再起動する

ルータはアクセスを速くする為にルーティング・テーブル、宛先 IP テーブルなどを持っています。これは一定期間、情報を保持し必要に応じて更新されます。もし、ネットワーク内で接続し直したり接続しているノードの IP アドレスの変更を繰り返し行った直後には、すべての IP アドレスに誤りが無くても正常に動作しない場合があります。この場合はルータを再起動させて回避できます。再起動の操作手順については、ルータの取扱説明書をご覧ください。

Windows® 2000/XP/Winodws Vista®のIPPのトラブルシューティング

印刷データがファイアウォールを通過できない

IPP印刷にポート631を使用すると、印刷データがファイアウォールを通過できない場合があります。ポート番号を変更するか（ポート80など）、ポート631を使用できるようにファイアウォールの設定を変更します。

ポート 80（標準 HTTP ポート）を使用するプリンタに、IPP を使用して印刷ジョブを送信する場合、Windows® 2000/XP/Winodws Vista®での設定時に、次のデータを入力します。

http://*ip_address*/ipp

Windows® 2000 での［詳細］オプションが使用できない

Windows® XP での［プリンタの Web サイト］オプションが使用できない

http://*ip_address*:631/ippのURLを使用している場合は、Windows® 2000での［詳細］オプションおよびWindows® XPでの［プリンタのWebサイト］オプションは使用できません。
これらのオプションを使用するには、次のURLを使用してください。

http://*ip_address*

これは本製品のインターネット印刷にポート80を割り当てるURLです。
Windows® 2000/XPと本製品との通信にポート80が使用できます。

ウェブブラウザのトラブルシューティング

1 **ウェブブラウザを使用してネットワークプリンタに接続できない場合は、ブラウザのプロキシの設定を確認する**

プロキシを使用しないように設定し、必要に応じて本製品の IP アドレスを入力します。
ネットワークプリンタの接続時に、毎回コンピュータが ISP やプロキシサーバへの接続を試行しなくなります。

2 **使用しているウェブブラウザが適しているか確認する**

Windows® の場合は Microsoft Internet Explorer 6.0 以降または Firefox 1.0 以降、Macintosh の場合は Safari 1.0 以降を推奨いたします。

Windows®のインターネット接続ファイアウォールの問題

Windows® XP/Winodws Vista®で、「インターネット接続ファイアウォール」を有効にしている場合、以下のような制限が発生します。

- TCP/IPピアツーピア印刷　　印刷できない場合があります。
- ネットワークスキャナ　　アプリケーションからスキャンできない場合があります。
  本製品の［Scan］による以下の機能が利用できません。
  - スキャン to Eメール
  - スキャン to イメージ
  - スキャン to OCR
  - スキャン to ファイル
- ネットワークPCファクス　　受信ができない場合があります。
- BRAdmin Light　　プリンタの検索ができない場合があります。

これらの機能を利用する場合は、以下の手順でファイアウォール設定を変更する必要があります。但し、変更設定はセキュリティーポリシーによって適切、不適切と判断される場合があります。ご利用の環境に最も適した設定方法を選択してください。

Windows® XP Service Pack2の場合

● インターネット接続ファイアウォールを無効にする

1. コントロールパネルから［ネットワークとインターネット接続］－［Windows ファイアウォール］をクリックする

2. ［全般］タブが選択されている画面で、［無効（推奨されません）(F)］をクリックする

● インターネット接続ファイアウォールを有効にしたまま設定を変える

1. ［例外］タブをクリックする

2. ［ポートの追加 (O)...］ボタンをクリックする

3. ［ポートの追加］ウィンドウでは以下の情報を入力する
   - 名前(N)：
     "Brother BRAdmin Light"（名称は任意です）
   - ポート番号(P)：
     "54925"
   - プロトコル（TCP/UDP）は、"UDP(U)"を選択してください。

4. ネットワーク PC ファクス受信を行う場合は、同様の手順で、以下の情報を入力する
   - 名前(N)：
     "Brother PC-FAX RX"（名称は任意です）
   - ポート番号(P)：
     "54926"
   - プロトコル（TCP/UDP）は、"UDP(U)"を選択してください。

5. ［ポートの追加］ウィンドウの左下の［スコープの変更 (C)...］ボタンをクリックする

6. ［スコープの変更］ウィンドウでは［ユーザーのネットワーク（サブネット）のみ (M)］を選択する

7. 全ての画面を［OK］で閉じて完了する

ローカルネットワークで複数の Windows® XP をインストールしたコンピュータから本製品を利用する場合、それぞれのコンピュータに対して、同様の設定変更が必要になります。このような場合はWindows® XPのファイアウォール機能をすべて無効にし、ルータでサポートされているファイアウォール機能を利用することをお勧めします。詳しくは、ネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

※ファイアウォール機能を無効に設定した場合の結果については、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。

Winodws Vista®の場合

● インターネット接続ファイアウォールを無効にする

1. コントロールパネルから［ネットワークとインターネット］－［Windows ファイアウォール］をクリックし、表示された画面で［設定の変更］をクリックする

2. ［ユーザーアカウント制御］で［続行］をクリックする
管理者アカウントのユーザで無い場合は、管理者のパスワードを入力して［OK］をクリックします。

3. ［全般］タブが選択されている画面で、［無効（推奨されません）(F)］をクリックする

● インターネット接続ファイアウォールを有効にしたまま設定を変える

1. ［例外］タブをクリックする

2. ［ポートの追加 (O)...］ボタンをクリックする

3. ［ポートの追加］ウィンドウでは以下の情報を入力する
   - 名前(N)：
     "Brother BRAdmin Light"（名称は任意です）
   - ポート番号(P)：
     "54925"
   - プロトコル（TCP/UDP）は、"UDP(U)"を選択してください。

4. ネットワーク PC ファクス受信を行う場合は、同様の手順で、以下の情報を入力する
   - 名前(N)：
     "Brother PC-FAX RX"（名称は任意です）
   - ポート番号(P)：
     "54926"
   - プロトコル（TCP/UDP）は、"UDP(U)"を選択してください。

5. ［ポートの追加］ウィンドウの左下の［スコープの変更 (C)...］ボタンをクリックする

6. ［スコープの変更］ウィンドウでは［ユーザーのネットワーク（サブネット）のみ (M)］を選択する

7. 全ての画面を［OK］で閉じて完了する

ローカルネットワークで複数のWinodws Vista®をインストールしたコンピュータから本製品を利用する場合、それぞれのコンピュータに対して、同様の設定変更が必要になります。このような場合はWinodws Vista®のファイアウォール機能をすべて無効にし、ルータでサポートされているファイアウォール機能を利用することをお勧めします。詳しくは、ネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

※ファイアウォール機能を無効に設定した場合の結果については、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。

アンチウイルスソフトの問題

市販のセキュリティ・ソフトウェアでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されている場合も、Windows® XP/Winodws Vista®と同様の影響を受けます。詳しい設定方法についてはソフトウェア提供元へご相談ください。

その他の問題

その他に問題が発生する場合は、以下の手順で確認します。

1 **容量の小さいジョブは正しく印刷でき、グラフィックなど容量の大きいジョブの印刷品質に問題があったり不完全に印刷される場合は、プリンタに搭載されているメモリの容量や、最新のプリンタドライバがコンピュータにインストールされているかどうかを確認する**

プリンタの最新ドライバは、ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。

2 **その他、まれに発生する問題の原因は、各プロトコル別のトラブルシューティング**P.97**を参照する**

7章

付録

■ 文字を入力する 105
■ 操作パネル以外からIPアドレスを設定する 106
■ IPアドレスの設定方法 107
手動で設定する（BRAdmin Light） 107
DHCPを使用する 108
APIPAを使用する 108
RARPを使用する 109
BOOTPを使用する 109
■ オートマチックドライバインストーラを使う 111
■ オープンソフトウェアのライセンス契約文 114
OpenSSLについて 114
■ 用語集 116
■ 索　引 119

文字を入力する

操作パネルのボタンで文字を入力します。

入力できる文字

ボタンを押す回数に応じて入力できる文字が変わります。

ボタン	入力できる文字
ア 1	アイウエオァィゥェォ＠．／１
カ 2 ABC	カキクケコａｂｃＡＢＣ２
サ 3 DEF	サシスセソｄｅｆＤＥＦ３
タ 4 GHI	タチツテトッｇｈｉＧＨＩ４
ナ 5 JKL	ナニヌネノｊｋｌＪＫＬ５
ハ 6 MNO	ハヒフヘホｍｎｏＭＮＯ６
マ 7 PQRS	マミムメモｐｑｒｓＰＱＲＳ７
ヤ 8 TUV	ヤユヨャュョｔｕｖＴＵＶ８
ラ 9 WXYZ	ラリルレロｗｘｙｚＷＸＹＺ９
ワ ゛゜ 0	ワヲン゛゜ー０
記号1 ＊	（スペース）！"＃＄％&'（）＊＋，－．／€
記号2 #	：；＜＝＞？＠［］＾＿￥～‘｜{}

入力時の画面には、一覧の文字のうち設定する機能で利用できる文字のみ表示され、例えばIPアドレスの設定画面では数字のみが表示されます。
DCP-9040CNではカナ文字入力はできません。

文字の入れ方（変更のしかた）

電話番号や文字は以下の操作で入力します。

したいこと	操作のしかた
文字を入れる	1 ～ 0 、＊、# を押す
電話番号に「ポーズ」を入れる ※ポーズ（約3.5秒の待ち時間）	再ダイヤル/ポーズ を押す ※入力したポーズは「p」で表示されます。発信元登録（メニュー.0.3）では入力できません。
文字を削除する	クリア/バック を押す • カーソルが文字列の最後の後方にあるときは、カーソルの左の1文字を削除する • カーソルが文字列上にあるときは、カーソル位置の1文字を削除する
文字を変更する	◀ を押してカーソルを戻し、クリア/バック で修正したい文字を削除し、文字を入力しなおす（挿入されます）
スペース（空白）を入れる	▶ を押してカーソルを右に移動させる（文字のときは ▶（2回押）でスペースを入れることができます）
記号を入力する	入力したい記号ボタン（記号1 ＊ または 記号2 #）を押して記号を選ぶ
同じボタンで続けて文字を入力する	▶ を押してカーソルを１文字分移動させて入力する
入力した内容を確定させる	OK を押す

入力例

「ノード名」に「BRN112234」と入力するときは下記のように操作します。
「ノード名」の入力画面では、アルファベットの大文字と数字が入力できます。

操作のしかた	ディスプレイ表示
カ 2 ABC を2回押す	B
マ 7 PQRS を3回押す	BR
ハ 6 MNO を2回押す	BRN
ア 1 を1回押す	BRN1
▶ を1回押す	BRN1_
ア 1 を1回押す	BRN11
カ 2 ABC を4回押す	BRN112
▶ を1回押す	BRN112_
カ 2 ABC を4回押す	BRN1122
サ 3 DEF を4回押す	BRN11223
タ 4 GHI を4回押す	BRN112234

操作パネル以外からIPアドレスを設定する

TCP/IPプロトコルを使用するには、ネットワーク上の各デバイスに固有のIPアドレスを設定する必要があります。
ここでは、2章で紹介していない本製品のIPアドレスの設定方法について説明します。

IPアドレスの設定

● IP アドレスの自動設定機能

本製品は各種のIPアドレス自動配布機能に対応しています。
デフォルトでは以下の自動設定機能が有効になっており、本製品起動時に自動的にIPアドレスを割り当てることができます。

デフォルトでの設定：IP アドレス配布サーバを使用する（詳しくはP.108を参照してください。）

- 設定されるIPアドレス内容は、IPアドレス配布サーバに依存します。
- 上記の IP アドレス配布サーバがない環境では、APIPA 機能によって、自動的にアドレスを割り当てます。（上記 IP アドレス配布サーバからの割り当てが優先します。）

アドレス：169.254.1.0～169.254.254.255の範囲のいずれかになります。

サブネットマスク：255.255.0.0

ゲートウェイ：0.0.0.0

注意

■APIPA による割り当ては、使用しているネットワークでの IP アドレス設定規則に適さない場合があります。そのような場合は、APIPA以外の方法でIPアドレスを割り当ててください。

■APIPA機能を無効にしたい場合は、P.30を参照してください。
デフォルトでは、APIPAプロトコルは使用可能に設定されています。

IPアドレスの自動設定機能が無効な場合のデフォルトのIPアドレスは、192.0.0.192です。使用しているネットワークのIPアドレス設定規則に合わせて、IPアドレスを変更してください。
IPアドレスは、次項「IP アドレスの設定方法」のいずれかの方法で変更できます。

補足

LAN設定内容リストを印刷して、現在の設定値を調べることができます。
詳しくはP.33を参照してください。

● IP アドレスの設定方法

ネットワークの設定状態に応じて、以下の方法があります。
なお、使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。ルータ越しに接続されている場合は、さらにルータ（ゲートウェイ）のアドレスも設定します。

デフォルト状態の本製品を使用する場合：

- 操作パネルを使用する。P.19
- BRAdmin Lightを使用する。P.38

TCP/IP で通信できる状態の本製品の設定を変更する場合：

- 操作パネルを使用する。P.19
- HTTP（ウェブブラウザ）を使用する。P.34
- BRAdmin Lightを使用する。P.38

補足

設定を変更するときは、パスワードの入力を要求される場合があります。デフォルトのパスワードは“access”です。

IPアドレスの設定方法

手動で設定する（BRAdmin Light）

BRAdmin Light ユーティリティは、ネットワークプリンタなどネットワークに接続された機器の管理を行うソフトウェアです。TCP/IPネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IPアドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003およびMac OS X 10.2.4 以上に対応しています。

補足

IPアドレスの手動設定は、操作パネルからも設定できます。詳しくは P.19 を参照してください。設定してあるIPアドレスを変更する場合は、HTTP（ウェブブラウザ）を使用することもできます。

BRAdmin Light での設定方法

注意

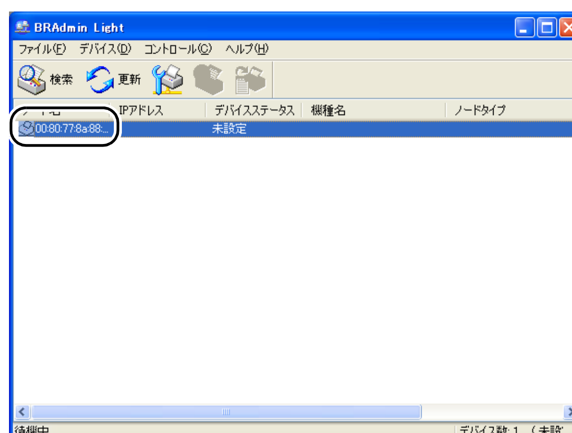
- ■BRAdmin Lightは同梱のCD-ROMに収録されています。
- ■さらに高度なプリンタ管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional ユーティリティ（Windows 版のみ）をご利用ください。BRAdmin Professionalはブラザー工業株式会社のホームページで提供しております。
- ■BRAdmin Light を操作するコンピュータで、「ファイアウォール」を有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- ■BRAdmin Light で表示される本製品のノード名は、デフォルトでは「BRNxxxxxx」となっています。（「xxxxxx」はMACアドレスの末尾の6桁です。）
- ■本製品のデフォルトパスワードはaccessです。

1　BRAdmin Light ユーティリティを起動する

Windwos 版の場合は、［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順に選択します。
Mac OS X 版の場合は、デスクトップ上の［Macintosh HD］から、［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］－［BRAdmin Light.jar］の順に選択します。

BRAdmin Light が起動し、自動的に接続されているデバイスを検索します。

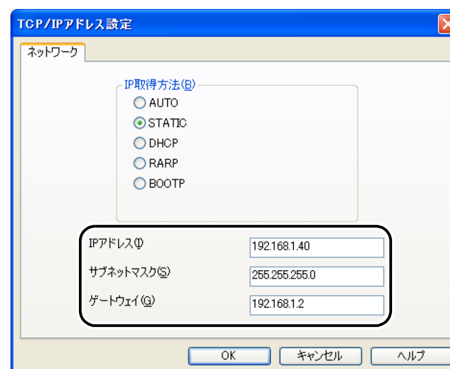
2　［新しいデバイス］をダブルクリックする



補足

- 本製品がデフォルト設定の場合（DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合）に、「新しいデバイス」として表示されます。
- ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、本製品のネットワークインターフェースが表示されます。

3 ［IP アドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力する



4 ［OK］をクリックする

アドレス情報が本製品に保存されます。

DHCPを使用する

動的ホスト構成プロトコル（DHCP）は、IPアドレス自動割り当て機能の1つです。ネットワークにDHCPサーバがある場合は、そのDHCPサーバから本製品に自動的にIPアドレスが割り当てられ、RFC1001および1002準拠の動的名前サービスを使用して、その名前が登録されます。

注意

DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用しない場合は、自動的にIPアドレスを取得しないように設定してください。操作パネル、BRAdmin LightまたはHTTP（ウェブブラウザ）を使用して、IPの設定方法を手動（static（固定））に設定します。

APIPAを使用する

APIPA は、IPアドレス配布サーバがない環境で、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。APIPA は、本製品のIPアドレスを169.254.1.0から169.254.254.255の範囲で自動的に割り当てます。また、サブネットマスクを255.255.0.0、ゲートウェイアドレスを0.0.0.0に設定します。

デフォルトでは、APIPA プロトコルは使用可能に設定されています。APIPA 機能を無効にしたい場合は、P.30 を参照してください。
APIPA機能を無効にすると、本製品のIPアドレスは192.0.0.192になります。このIPアドレスは手動で変更できます。

RARPを使用する

RARP は、問合せに対しRARPサーバが本製品のMACアドレスに対応するIPアドレスを自動的に割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。

補足

RARPサーバの設置についてはRARPの説明書を参照してください。

設定は、問合せを行うクライアントマシンに/etc/ethersファイルを準備して行います。
/etc/ethersファイルに、以下の行を追加しておきます。
前半部分が本製品のMACアドレス、後半部分が本製品のホスト名です。

入力例：

```
00:80:77:xx:xx:xx        BRNxxxxxx
```

後半部分の本製品のホスト名は、/etc/hostsファイルと同じ名称にしてください。

注意

この場合のホスト名はノード名を入力してください。デフォルトでは「BRNxxxxxx」となっています。（「xxxxxx」はMACアドレスの末尾の6桁です。）

続いてrarpd を起動し、RARPを確認するコマンドをサーバに送ります。

Berkrly UNIX システムの場合の入力例：

```
ps -ax | grep -v grep | grep rarpd
```

AT&T UNIX システムの場合の入力例：

```
ps -ef | grep -v grep | grep rarpd
```

RARPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。

注意

RARPのコマンドは、使用しているシステムにより異なります。設定前にシステムのコマンドを確認してください。

BOOTPを使用する

BOOTPは、RARPとは別の方法でIPアドレスを取得する方法で、IPアドレスのほか、サブネットマスクやゲートウェイアドレスも取得します。
BOOTPを利用する場合は、あらかじめホストコンピュータでBOOTPを実行しておきます。

補足

BOOTPサーバの設置についてはBOOTPの説明書を参照してください。

● /etc/inetd.conf の編集

BOOTPを起動します。一般的には inetd から起動します。
/etc/inetd.conf を編集し、以下の行先頭の＃（コメントアウト）をはずします。

```
#bootp dgram udp wait /usr/etc/bootpd bootpd -i
```

補足

システムによっては1語目の「bootp」が「bootps」になっています。

● /etc/bootptab の編集

/etc/bootptabを編集し、IP アドレスや BOOT 用ファイル名を指定します。

入力例：

BRNxxxxxx 1 00:80:77:xx:xx:xx 192.168.1.2

と

BRNxxxxxx:ht=ethernet:ha=008077xxxxxx:¥
ip=192.168.1.2:

BOOTPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。



構成ファイルにダウンロードファイル名を含めない場合、BOOTPサーバはBOOTP要求に応じません。

オートマチックドライバインストーラを使う

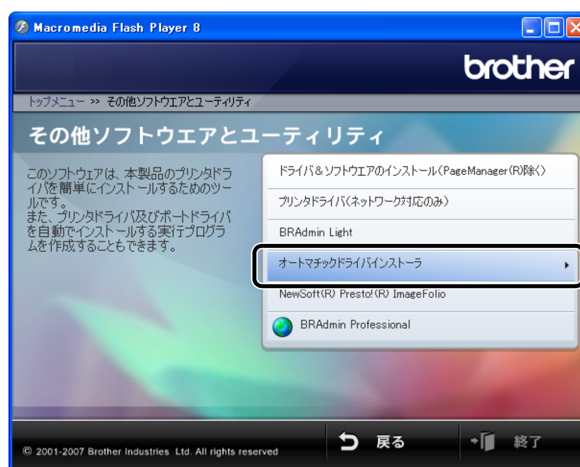
プリンタドライバをご使用の設定に合わせて作成するツールです。ネットワーク接続のみにオリジナルドライバを作成でき、ユーザーに配布することができます。配布インストーラは、OS毎の作成が必要です。
プリンタドライバとソフトウェアを同時にインストールできるため、わずらわしい設定作業をすることなくプリンタドライバの設定が可能になり、インストール作業の時間と手間を省けます。
このソフトウェアはWindows®専用です。

1 付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

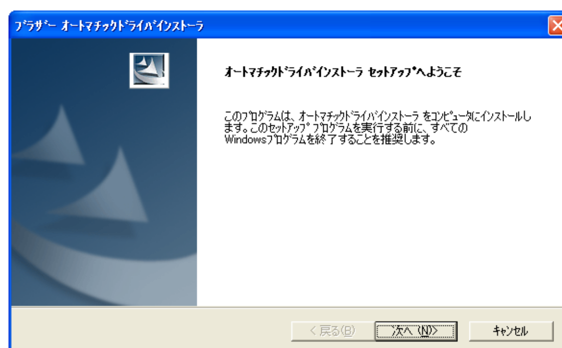
2 [その他ソフトウェアとユーティリティ] をクリックする



3 [オートマチックドライバインストーラ] をクリックする



4 画面に指示にしたがいインストールを完了する



5 **［完了］ボタンをクリックする**

オートマチックドライバインストーラが起動します。



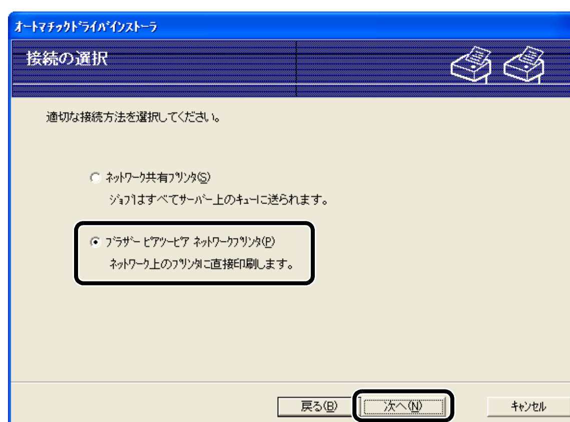
6 **［次へ］をクリックする**



7 **製品に合わせて［プリンタ］または［MFC］を選択し、［次へ］をクリックする**



8 **［ブラザーピアツーピア ネットワークプリンタ］を選択し、［次へ］をクリックする**



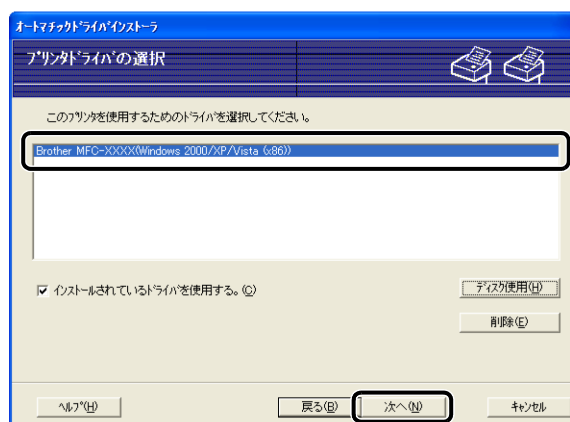
9 設定するプリンタを選択し、［次へ］をクリックする

ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、設定するプリンタを選択します。
「ポートドライバ」ではプリンタの接続方法を選択します。



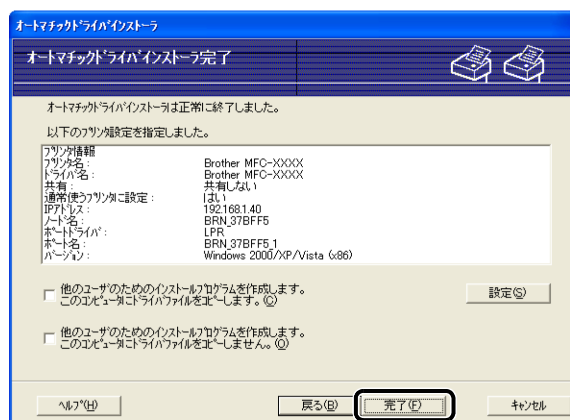
10 プリンタドライバを選択し、［次へ］をクリックする

すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、「インストールしているドライバを使用する」をチェックし、表示されるドライバを選択します。
プリンタドライバがインストールされていない場合は、［ディスク使用］をクリックして CD-ROM 上の保存を参照します。



11 ［完了］をクリックする

プリンタドライバが自動的にインストールされます。



オープンソフトウェアのライセンス契約文

OpenSSLについて

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

用語集

● APIPA

Automatic Private IP Addressingの略です。

IPアドレス配布サーバが無い環境では、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てる機能です。

● APOP（証明付ポストオフィスプロトコル）

APOP は、POP3（インターネット受信プロトコル）を拡張し、クライアントがE メールを受信するときにパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

● ARP

Address Resolution Protocolの略です。

TCP/IPプロトコルにおいて、IPアドレスの情報からMACアドレスを調べて通知するプロトコルです。

● BOOTP

BOOTstrap Protocolの略です。

TCP/IPネットワーク上のクライアントマシンにおいてIPアドレスやホスト名、ドメイン名などのパラメーターをサーバーから自動的にロードしてくるためのプロトコルです。

● BRAdmin Light

BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista®およびMac OS X の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。ネットワークに接続されているブラザープリンタを設定し、そのステータスを確認することができます。

● BRAdmin Professional

BRAdmin Professional は、Windows® 2000/XP/Windows Vista®の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。BRAdmin Light では設定できないより高度なネットワーク設定ができます。ブラザーソリューションセンター（http://solutions.brother.co.jp/）よりダウンロードしてください。

● CSR（証明書署名要求）

証明書の発行を申請するために、証明機関（CA）に送信するメッセージです。CSR には、申請者を識別する情報、申請者が作成した公開鍵、申請者のデジタル署名が含まれます。

● DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略です。

動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク上のIPアドレスを動的かつ自動的に割り当て管理するプロトコル。BOOTPの拡張版で、DHCPサーバーはDHCPクライアントの要求に応じてIPアドレスを割り当て、サーバーとクライアント間の通信にはBOOTPを使用します。メッセージのフォーマットやプロトコルは、BOOTPとほぼ同じです。

● DNS

Domain Name Systemの略です。

TCP/IPネットワークで使用されるネームサービスです。クライアントはDNSサーバー内のホスト名とIPアドレスの対応関係を記述したデータベースを参照することで、ホストの名前を指定してネットワークにアクセスできるようになります。

● FTP

File Transfer Protocolの略です。

ファイル転送プロトコルで、TCP/IPプロトコルの一つです。ネットワークにログインし、ファイルの表示や転送を行う目的で使用されます。

● HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）でSSL を用いるインターネットプロトコルです。

● IP アドレス

IPプロトコルで使用するための32bit（IPv4）のアドレスで、ネットワーク自体やネットワーク上のノードを特定する論理番号のことです。

● IPP

Internet Printing Protocolの略です。

インターネットなどの TCP/IP ネットワークを通じて印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコルです。特徴として、ウェブブラウザなどが使うHTTPプロトコルを用いてネットワーク上のプリンタに印刷を指示できるようになっています。インターネットを通じて遠隔地のプリンタにデータを送って印刷することもできます。

● IPPS

インターネット印刷プロトコル（IPP バージョン1.0）でSSLを用いる印刷プロトコルです。

● IPv6

Internet Protocol Version 6の略です。

現在インターネットで用いられているプロトコルであるIPv4の後継バージョンの名称です。増加するインターネットの使用者に対応するため、管理できるアドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータの送信などの改良を施した次世代インターネットプロトコルです。

● LPR

Line PRinter daemon protocolの略です。

lpr は、プリント・キューに存在するプリント・ジョブを、printcapファイルで指定されたプリンタに印刷する要求を行うためのポートです。UNIX に接続されたプリンタに印刷するために、広く使われています。

● MAC アドレス（イーサネットアドレス）

イーサネット機器が持つ6バイトのアドレスです。ISO/OSIモデルの物理層およびデータリンク層で機能します。MACアドレスは機器内部に記憶されているので、ユーザーが変更することはできません。

● mDNS

Mac OS X v10.2以降でサポートされている機能で、mDNSを有効にすると、mDNSをサポートしているクライアントから自動的に認識されます。

● Microsoft Internet Print Services

IPPプロトコルを使用して、Windows® 2000/XP/Windows Vista® コンピュータを通じて印刷ジョブをプリンタに送るときに使用します。

● NetBIOS
Sytek 社が開発したアプリケーション・プログラム・インターフェース（API）で、LAN上のコンピュータが同じLAN上の他のコンピュータと対話する必要がある前提で設計されたインターフェースです。IBM Server、Microsoft LANManager 環境向けのアプリケーションを作成するときにプログラマが使用します。

● POP before SMTP（PbS）
クライアントから E メールを送信するユーザー認証方法です。クライアントは、E メールを送信する前にPOP3 サーバにアクセスすることによって、SMTP サーバを使用する許可を得ます。

● POP3
インターネットで電子メールを保存しているサーバから電子メールを受信するためのプロトコルです。

● RARP
ARP プロトコルとは逆に、自ノードの MAC アドレスから「自分の」IPアドレスを求めるためのプロトコルです。

● SMTP
Simple Mail Transfer Protocol の略です。

インターネットで電子メールを転送するプロトコルです。

● SMTP-AUTH（SMTP 認証）
SMTP-AUTH は、SMTP（インターネットE メール送信プロトコル）を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

● SNMP
Simple Network Management Protocol の略です。

ネットワークを監視し管理するためのプロトコルです。

● SSL（Secure Socket Layer）/TLS（Transport Layer Security）
インターネット上でデータを暗号化して送受信するプロトコルです。公開鍵暗号や証明書などの技術を組み合わせてセキュリティを高めることができます。

● TCP/IP
Transmission Control Protocol/Internet Protocol（伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル）の略です。

インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト（アプリケーション）を特定して通信路を確立するプロトコル（TCP）と、通信経路に関するプロトコル（IP）から構成されています。OSI参照モデルでは、TCPはレイヤー 4、IPはレイヤー 3に対応しています。

● TELNET
自端末からリモートシステム端末へのアクセス機能, ネットワーク内での仮想端末の機能を提供するTCP 上のプロトコルで、リモートTelnetコネクションという文字単位の通信経路を設定します。通常ログイン時のパスワード認証以外に特別なセキュリティ機能は持ちません。

● UDP
User Datagram Protocol の略です。

TCP/IPにおけるトランスポート層に属するプロトコル。インターネットでは、音声や動画などのストリーミング送信などのデータ転送に使用されており、転送速度は速く信頼性が低いのが特徴です。逆に、TCP は転送速度が遅く信頼性が高いのが特徴です。

● イーサネットモード
イーサネットの転送速度と転送方法の設定のことです。

● 共有鍵暗号システム
暗号化するための秘密鍵と復号化するための公開鍵に同じキーを用いる暗号方法です。

● 公開鍵暗号システム
秘密鍵と公開鍵で一対の鍵になります。暗号化するための秘密鍵と復号化するための公開鍵にそれぞれ異なるキーを用いる暗号方法です。

● コモンネーム
SSL接続をする場合にウェブブラウザにアドレスとして入力するURLです。CSRを生成する情報として入力し、SSL暗号化通信をする際に証明書の検証のために使用されます。

● サブネットマスク
IPアドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のことです。IPアドレスとサブネットマスクをANDすると、サブネットアドレスになります。

● 自己署名証明書
自己署名証明書は、本製品の Web ページ機能にアクセスするときに、接続先が本製品であることを確認し、通信を暗号化するために必要なものです。ご使用の Web ブラウザに組み込むことで安全に通信ができます。

● 証明機関（CA）
電子的な身分証明書（X.509 証明書）を発行し、証明書内の公開鍵などのデータとその所有者の結び付きを保証する機関です。

● 証明書
公開鍵と本人を結び付ける情報です。証明書を用いて、個人に所属する公開鍵を確認することができます。形式は、x.509規格で定義されています。

● デジタル署名
データの受信者がデータの正当性を確認するための情報です。暗号アルゴリズムで計算される値で、データオブジェクトに付加されます。

● ノード名
ネットワーク上で、本製品を識別するための名前です。

● フィンガープリント
デジタル証明書などが改ざんされていないことを証明するデータのことです。

● ポート番号

複数の相手と同時に接続を行なうためにIPアドレスの下に設けられたサブ（補助）アドレス。ポートの指定には0から65535までの数字が使われます。FTPは21、HTTPは80、メール受信は110、などのように、ポート番号はサービスを特定するための番号です。

● ルータ

ネットワーク間（LANとLAN、LANとWAN）の接続を行うネットワーク機器の一つです。

索　引

A

APIPA 30
APOP 45

B

BRAdmin Light 38, 107
BRAdmin Professional 48
BR-Script3 86

C

CSR 65

D

DHCP 108
DNS サーバ 29

E

Ethernet 31

H

HTTP 34

I

IPP 78, 98
IPPS 45, 49
IPv6 30
IP アドレス 16, 23, 106
IP アドレス配布サーバ 39
IP 取得方法 22

L

LAN ケーブル 15
LAN 設定内容リスト 33
LPR 70

M

Macintosh 84

N

NetBIOS 名 26

P

POP before SMTP 45
POP3 50

S

SMTP 50
SMTP-AUTH 45
SSL 45

T

TCP/IP 21, 70, 95, 97
TLS 45

U

URL 49, 83

W

WINS サーバ 28
WINS 設定 27

い

イーサネット 31
インターネット印刷 45, 78

う

ウイルスソフト 102
ウェブブラウザ 34, 98

お

オートマチックドライバインストーラ 111

け

ゲートウェイ 25, 39

さ

サブネットマスク 16, 24

し

証明機関（CA） 52
証明書 52
初期化 32

せ

セキュリティ機能 44
セキュリティプロトコル 45
セキュリティ方式 45
接続と設定 95

と

トラブルシューティング 93

ね

ネットワーク PC ファクス 77, 92
ネットワークインターフェースの設定 39
ネットワーク共有 14
ネットワークスキャン 74, 90
ネットワークの接続方法 13
ネットワークプリンタ 70, 85
ネットワークリモートセットアップ 42

の

ノード名 26

は

パスワード 35
ハブ 15

ひ

ピアツーピア接続 13
秘密鍵 67

ふ

ファイアウォール 99

も

文字を入力 20, 105

り

リモートセットアップ 42

る

ルータ 15